

*Published since 1971*

# 日工販NEWS

July  
2023

工作機械業界への知見を広げ、日工販会員の絆を深める広報誌

稲泉寺に咲く蓮の花(長野県木島平村)



日本工作機械販売協会  
JAPAN MACHINE TOOL DISTRIBUTORS ASSOCIATION

過去最高!

492社 出展決定!

FEEL IT!

工作機械の迫力を  
さあ、会場で。

新第1展示館で規模拡大!

2023年日本最大級の工作機械見本市

MECT 2023

10.18<sup>WED</sup> - 21<sup>SAT</sup>

会場 ポートメッセなごや  
開催時間 10:00-17:00  
最終日21日(土)は16:00まで

大人1人1,000円(税込) 10人以上の団体は1人500円(税込) 公式ウェブサイトからの事前登録者、海外来場者、学生は無料

メカトロテック ジャパン 2023

MECHATRONICS TECHNOLOGY JAPAN

主催:(株)ニューズダイジェスト社 共催:愛知県機械工具商業協同組合  
mect-japan.com/2023

メカトロテックジャパン



July  
2023



稲泉寺に咲く蓮の花  
(長野県木島平村)

SE 合格者に  
ご回覧をお願いします。

## CONTENTS

- 2 特集 第 54 回定時総会
- 16 分かりやすい話題の技術  
「Saving Center『SV130 & SH350』  
省スペース・省エネルギー・自動化の紹介」  
エンシュウ株式会社 久米 憲一
- 18 分かりやすい話題の技術  
「CNC 横型ホブ盤『N70』のご紹介」  
浜井産業株式会社 柿沼 秀明
- 21 リレー随筆  
安田工業株式会社 大川 怜
- 22 私の読書評  
株式会社ダイイチテクノス 古木 琢也
- 23 私の健康法  
株式会社日進製作所 小栗 正道
- 24 会社生活に於ける私の初〇〇  
「初の海外出張」 双日マシナリー株式会社 鈴木 滉大
- 25 感動したスポーツの名場面  
「WBC 決勝戦」 株式会社三機 菅原 峻
- 26 SE 教育  
2023 年度日工販 SE 教育「基礎講座」報告  
日工販 SE 合格者 第 243 回発表
- 29 事務局だより  
2023 年度日工販 SE 教育「SE 資格取得講座」受講者の募集を行います！
- 30 海外だより  
「ローカルスタッフと共にタイのモノづくりに貢献を」  
ACCRETECH THAILAND CO., LTD. 武田 陽太郎
- 32 自社紹介  
アルビテクノロジー株式会社 苅込 修一
- 34 統計資料  
「工作機械・FA 流通動態調査 1」 「マシニングセンタ動向 & NC 施盤動向」  
「工作機械業種別受注額 (2023 年 5 月)」
- 37 議事録  
「第 304 回定例理事会議事録」 「第 305 回定例理事会議事録」  
「中部地区正副会員懇談会」 「西部地区正副会員懇親懇談会」  
「2023 年度東部地区委員会」
- 43 お知らせ  
日工販ニュース表紙写真の公募について

## 議事録

1. 日 時：2023年6月7日（水） 13：00～13：37

2. 場 所：ホテル雅叙園東京

## 【議 事】

## 1. 開会（13：00）

中島専務理事が進行係となり、別紙「総会次第」に従い議事を進めた。

## 2. 総会の成立：

専務理事より「本日の出席社数はリモート参加も含め46社（55名）、うち議決権行使者は45名、有効な委任状提出31社、有効議決権社合計74社であり、現在の在籍正会員数は80社につきこの総会は定款の定めにより成立する。」旨報告した。

## 3. 会長の挨拶：

高田会長より、「会員各位のご協力をいただき只今から上程議案の審議をお願いいたします。」との開会の挨拶があった。

## 4. 議案の審議：

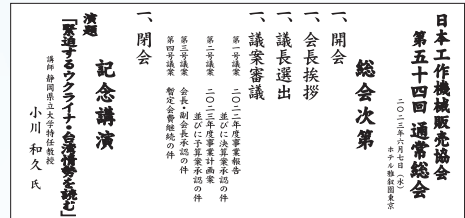
定款第14条に従い高田会長が議長に就き、第1号議案から第4号議案まで審議の結果、それぞれ次の通り承認された。

## (1) 第1号議案 2022年度事業報告並びに決算案承認の件

- ① 議長が事業報告書の「概要」を述べた。
- ② 専務理事が「決算報告書」の説明を行った。
- ③ 議案の審議に先立ち議長は監事に対し監査結果の報告を求めた。
- ④ 監事を代表して三橋監事から「2022年度の収支計算書、貸借対照表、諸帳簿、証憑を監査した結果、適正であることを認める」旨報告があった。
- ⑤ 議長が本件について出席者に諮り全員異議なく原案通り承認された。

## (2) 第2号議案 2023年度事業計画案並びに予算案承認の件

- ① 議長が事業計画案を提示、専務理事から予算案について説明を行った。
- ② 一般会計予算には、支出について、給与・法定福利費・通勤費に本年度定年退職予定の職員1名の引継ぎ期間の費用を見込む。また事業補助費について、地区委員会予算を積極的に増額し、活動の強化及び会場費等の値上がりに備える。



高田研至会長



(左から) 永安悟監事、山本佳孝監事、三橋誠監事

③ 教育事業会計は、予算上の参加人数として基礎講座 140 名、SE 資格取得講座 110 名、更新研修 70 名、永世 SE 60 名、また開催方法は 2022 年度踏襲をそれぞれ前提に置いた。

④ 議長が本件について出席者に諮り全員異議なく原案通り承認された。

### (3) 第 3 号議案 会長・副会長の件

① 議長より、理事互選により、会長に高田研至理事（㈱井高 取締役社長）、また副会長に金子隆視理事（丸紅テクノシステム㈱ 執行役員）、池浦捷行理事（㈱不二 代表取締役会長）、赤澤正道理事（赤澤機械㈱ 代表取締役社長）の各氏をそれぞれ留任とすること、また、赤澤社長の体調が現在優れないため、経過措置として副会長代行に岡本淳理事を任命することを説明。

② 議長が本件について出席者に諮り、全員異議なく原案通り承認された。

### (4) 第 4 号議案 暫定会費継続の件

① 議長から、感染状況も落ち着きコロナ前とほぼ同様の活動ができるようになったが、当協会 の年度末繰越金が適正なレベルとなるまで、2022 年度も継続することとしたいとの説明があった。

② 議長が本件について出席者に諮り、全員異議なく原案通り承認された。

## 5. 議長挨拶：

議長は、以上をもって全議案の審議が終了したことを告げるとともに、出席者の協力に対し謝辞を述べた。（13：36）

## 6. 閉会：

中島専務理事より、「本年度の会長表彰者は 三栄商事㈱ 代表取締役社長 後藤正幸氏だが、ご本人のご出席が本日叶わなかったため、後日記念品を贈呈する」旨を説明して閉会を宣し、通常総会を終了した。（13：37）

## 記念講演

### 「緊迫するウクライナ、台湾情勢を読む」

講師：小川和久氏

〔略歴〕

講談社「週刊現代」新聞記者等を経て日本初の軍事アナリストとして独立。

外交、安全保障、危機管理の分野で政府の政策立案に関わり、国家安全保障に関する官邸機能強化会議議員、

日本紛争予防センター理事、総務省消防庁消防審議会委員、内閣官房危機管理研究会主査等を歴任。

現在、軍事アナリスト、静岡県立大学グローバル地域センター特任教授、特定非営利活動法人国際変動研究所理事長として活躍中。



講師 小川和久氏



記念講演司会  
島津総務委員長

【要旨】

日本という国は優れた国で、胸を張って世界を歩けるのだが、外交、安全保障、危機管理については苦手であることを時々忘れてしまう。世界のどこに出しても通用するもの以外は0点で途中の点数はない。常に世界に通用するかどうかを意識しなければならないのに、他の分野で世界の最高レベルのものが多いため、同じようにできると錯覚してしまい、外交、安全保障、危機管理については躓いてしまうことがある。それを克服するためのツボを考えたいというのが本日の趣旨である。また激動している国際情勢について、マスコミなど報道をどのように見ていくかを話していきたい。

ウクライナ、台湾の情勢に入る前に、北朝鮮に触れておかなければならない。

北朝鮮は先週、人工衛星の打ち上げに失敗したが、着実に歩みを進めている。今回は、人工衛星打ち上げといいつながら、弾道ミサイル発射ではないかとの見方があるが、これは両方が目的である。北朝鮮は軍事力を近代化していくステップとして、偵察衛星の打ち上げを考えた。国際機関に通告をして、危険水域も設定し、ルール通りにやるという姿勢を見せているが、弾道ミサイルの開発に関わる技術が使われているため、それを禁じた国連の決議違反となる。

北朝鮮がなぜ弾道ミサイルと核兵器の開発を進めるのか・・・

一点豪華主義という言葉があるが、北朝鮮は二点豪華主義で来ている。その一つは、弾道ミサイルと核兵器である。アメリカの東海岸に届くような大陸間弾道ミサイルに核兵器を載せて、アメリカと直接話ができるようにしないと、安心できないというのが北朝鮮の立場である。これを専門的には体制保障という。金正恩体制を潰さないということをアメリカが保障したら弾道ミサイルと核兵器の開発はやめるとというのが金正恩の立場である。

大陸間弾道ミサイルと核兵器はまだ完成していないが、着実に進んでいるため油断してはならない。

北朝鮮はミサイルを去年は29回55発撃っているが、この大部分は短距離の弾道ミサイルで実戦配備が始まっている。長距離弾道ミサイルも去年は5回撃っており、ロフテッド軌道という高い弾道で打ち上げているが、あれを見ると開発の段階がわかる。マスコミ的に言うと、高く打ち上げると落ちてくるスピードが速くなるため、ミサイル防衛ができない、という話になる。自衛隊のOBでもそんなことを言っている



記念講演の様子

人がいるが、それは素人の考えだ。大陸間弾道ミサイルがアメリカの東海岸まで到達した場合、音の速さの23倍前後で落ちてくる。それも落とせるくらいのミサイル防衛能力に近づいてきている。スピードは問題ではない。高い軌道で上げて日本海に落としているのは、まだ再突入体という先端部分のキャップにあたるものが完成していないからだ。北朝鮮は、それを作ろうと必死になっている。大陸間弾道ミサイルは大気圏に再突入するとき先端が7,000度の高熱に包まれる。それに耐えられるキャップがなければ核弾道を積んでいても燃えてしまう。普通の国であれば、南太平洋あたりに目標海域を設定し、そこにパラボラアンテナを載せた船を展開して、電気信号を受信し、どの段階までどの電気信号が出ていたのかを把握しながら開発を進める。途中でキャップが壊れて電気信号が消えれば、まだ完成には程遠いとわかる。しかし北朝鮮は資金がなく船をもてないから、自国から電気信号を受信できる日本海に落としている。これがロフテッド軌道で打ち上げている理由だ。しかし、まだ最後まで電気信号を確認したことはなく、途中で壊れているのだろう。

核弾頭については7回目の核兵器実験をできる態勢だが、中国が首を縦に振ってくれない。中国はアメリカを見ながら、北朝鮮を利用しなければいけないため、そう簡単には首を縦に振らない。そのあたりからみても北朝鮮のミサイルと核兵器の開発はまだ足踏み状態と言える。北朝鮮はいろいろなミサイルを発射しているが、去年最も多く撃ったのは短距離弾道ミサイルで、地上の発射装置、列車、潜水艦などいろいろな場所から発射できるように準備をしている。これはウクライナにロシアが1,200発以上撃ち込んだイスカンデルというミサイルと同じもので、それを北朝鮮で改良したKN23である。我々が知っておくべきことは、北朝鮮がKN23を増やしているのに対して、韓国は同じものを全然違うルートから入手し、韓国版イスカンデル玄武2Bを2,000発くらい保有し、圧倒しようとしているというミサイルバランスの現実だ。韓国のほうがすごいことを忘れてはならない。

北朝鮮の二点豪華主義のもう一点。注目しなければいけないのは、世界で一番大きな規模の特殊部隊である。特殊部隊とは普通の兵隊よりも能力が高い部隊で、韓国は20万人規模といっているが、アメリカの特殊部隊と比べるとレベルは低く、ある程度のレベルにあるのはせいぜい5万人くらいだろう。しかし、その規模の特殊部隊がいることで北朝鮮に手出しすることをためらわせるという抑止力になっている。攻め込めば泥沼にはまるからだ。そういう抑止力を懸命に備えているのが北朝鮮なのである。

ウクライナの話に移る。ウクライナが反転攻勢に出ているのではないかというニュースが出ている。ロシア側は実際に劣勢であるため、ウクライナ南部の大きなダムを破壊した。過去にも一度壊しているのですが、二度目の今回で完全に破壊したが、ウクライナ側もあの地域からロシア領内に攻め込むことが出来なくなり、ロシア側も防衛ラインを自ら破壊してしまったため、戦車が来たら爆発するように地雷を埋設していたが、その地雷も水で流れ出し、水に浮いて爆発していたり、ロシアはそうとう辛い状況にある。ロシアはなぜこんなことをやるのか。第二次大戦中、旧ソ連のスターリンもやってきたことだが、ナチスドイツの部隊を防ぐためにあの地域でダムを爆破し、市民10万人が死んでいる。国民の生命などを全く考えないのが、彼らの常識だということを我々は知っておかなければならない。

北朝鮮の話にも関連するが、マスコミは北朝鮮版イスカンデルKN23はスピードが速いため撃ち落とすににくいとしている。確かに、この北朝鮮のKN23ミサイルは極超音速ミサイルでスピードが速い。極超音速は音速の5倍以上、マッハ5以上の速さだが、だから撃ち落とすににくいという考えは間違っている。イスカンデルは音速の10倍、マッハ10とも言われているし、空気抵抗を利用して変則軌道を飛ばすが、それでも

撃墜可能だと証明したのがウクライナの防空体制である。ウクライナは5月6日以降、アメリカやヨーロッパが供給した地対空ミサイル・パリオットでこのミサイル7発を落としている。最初に落としたのはPAC2というミサイルで、日本の石垣島や宮古島に展開しているものより古い。そのあと6発立て続けに落としたものはPAC3という日本と同じもの。これによって北朝鮮のKN23という極超音速ミサイルに対して、日本のミサイル防衛がそれなりの有効性をもちうるということが明らかになった。

5月の深夜、ロシアのプーチン大統領が執務しているクレムリン上空にドローンが2機飛来し、爆発したが、クレムリンの上まで入ってきたというのは、ロシアの防空体制が相当酷いということである。ウクライナではなくロシアの反政府勢力が飛ばした可能性もある。それだけでなく、各国がロシアをサイバー攻撃しており、防空システムが十分に機能していない可能性がある。

プーチンに引き立てられたプリゴジンという人物が、ワグネルという民間軍事会社を設立したが、ロシア軍との間で弾薬供給について行き違いがあり、ロシア内でもプーチン体制の足元が相当揺らぐ格好になっている。(※この講演後の6月下旬、ワグネルが反乱を起こし、短期間で終息した)

またプーチンは隣のベラルーシという同盟国に小型の戦術核兵器を運び込み、この核兵器が搭載可能な短距離弾道ミサイル・イスカンデルを提供すると表明した。

ウクライナ側は、いつ反転攻勢するかは秘密としているが、もう始まっていると考えてよい。

ゼレンスキー大統領が世界各国に支援を求めたのは、陸上戦力でいえば戦車が中心で、とくにドイツのレオパルト2の提供を求めた。アメリカのM1、イギリスのチャレンジャー2に加えて、ドイツがロシアの戦車よりは多少マシなレオパルト1をたくさん提供したため、300両以上で反転攻勢に投入できる体制になっている。(※講演後、西側が約束した戦車は700両以上で、その60%しか届いていないことが明らかになった)

これまでは西側諸国はウクライナが強力な兵器を要求しても提供せず、ロシア軍を国境まで追い戻すのがやっとの「寸止め兵器」しか提供しなかった。

ロシア領内を攻撃してしまうのはまずいという判断からだ。しかしここに来てイギリス製の射程250kmの巡航ミサイルなどがウクライナ側で使われるようになってきたため、このへんの制約も変わっていくという感じがある。

当初、寸止め兵器しか提供しなかったのは、劣勢になるほどにロシアが核兵器に手をかける危険性が高まるからだ。

3年前の2020年6月2日、プーチンは一通の文書に署名した。4つの条件を満たすような場合は、相手が核兵器を使わなくても、ロシアは核兵器で反撃をするという内容だった。

- ・生物化学兵器が使われた場合。
- ・核弾頭が積まれているかわからなくても弾道ミサイルを発射された場合。
- ・サイバー攻撃をされた場合。
- ・プーチンはじめ指導部がやられた場合。

その時は核兵器で反撃をすると、はっきりと書いている。

このことはプーチンがロシア軍はダメだということを実感しており、またサイバー攻撃能力もアメリカに比べると低いことを実感していると、世界の専門家に受け止められた。アメリカをはじめとするNATO諸国と戦うことはできないレベルだと実感していたことになる。しかし、ウクライナ軍くらいなら大丈夫





記念講演の様子

だろうと高を括って攻め込んで失敗した。

そういう中で、プーチン暗殺計画が面白おかしくマスコミにでるが、それができるのであれば各国は既にやっている。しかしそう簡単にはいかない。それは2020年6月2日にプーチンが署名した文書だけでなく、以前から指導部が暗殺された場合には、半自動的に核兵器を発射し、報復核攻撃を行える「死者の手」と呼ばれるシステムがあるからだ。相手が核兵器を使ったり、大統領が暗殺されたりすると、通信用ロケットが打ち上げられ、極超短波で核兵器の部隊に発射命令が出る。西側もそれを常に意識している。プーチンを排除するには、ロシアの法律に基づいてプーチンを国家反逆罪などの形で拘束してしまうことだが、そのことが核兵器をもっている部隊に直ちに伝えられればよいが、うまくいくかどうかはわからないというリスクがある。

いま各国が憂慮しているのは、朝鮮戦争型の停戦というパターンだ。朝鮮戦争は休戦になってから70年になる。1953年（昭和28年）7月27日に停戦になった。ずっと戦争が終わらないまま南北分断が70年続いている。ウクライナの場合も、そういった方向に行く可能性がある。いまプーチンが戦争をやめたといっても、ロシア軍が引かない限りウクライナは攻撃する。どういった形になるか注目が集まっている。あるいは中東のイスラエルを各国が強力な武装国家にしてアラブ諸国と対峙させているが、そういった形にウクライナを持っていくという話もある。ウクライナの国民にとっては迷惑千万な話である。

そういうウクライナ戦争だが、去年、ロシアがウクライナに攻め込んだ後、最初に首都のキーウ（ロシア語でキエフ）を狙って失敗した。そのあと、マスコミに出てくる専門家は、次は東側のドンバス地方が戦場になり、地形が平坦なため戦車戦になると発言していた。しかし戦車戦にはならなかった。その謎を解くカギが旧ソ連製のT72という戦車だ。ウクライナ・ロシア双方の主力戦車でもある。実際に乗った立場でいうと、これは長所と短所がはっきりした戦車だ。ウクライナは攻め込まれたため、防御陣地を盾にこれを使うことができた。攻め込んだロシア側は弱点をさらしているから簡単に破壊された。お互いに長所短所がわかっているから、平坦な東部に行っても戦車同士が走り回るような戦いにはならなかった。しかし、これからはウクライナ側が攻めなければならない。そうなってくると弱点をさらすT72では困るから強力なレオパルト2を要求したわけだ。

メディアが報じていないことだが、なぜロシアは北から攻めたのか。実を言えば、戦争が始まる前から、我々やアメリカ軍は北から攻めると断言していた。日本だけでなくアメリカのシンクタンクやマスコミは、東からロシアが攻め込むと矢印を地図に書いていた。シンクタンクや普通のメディアは軍事について兵器のカタログデータしか見ていないが、我々やアメリカ軍はロジスティックスの角度から分析するため、違いが出たわけだ。ロシア側はウクライナを120個の大隊戦術グループ BTG という単位の部隊で攻めたが、この BTG は物資集積場所から最大140キロまでしか行動できない。東部からは到底キーウに接近できない。それが北側のベラルーシからだとキーウ100キロ圏内。だから北から攻めることになった。

キーウ攻略に失敗した原因は気候の問題だ。侵攻した2月24日は、普通なら地面が凍っているので戦車も機械化部隊もいろいろなルートから入っていけるが、去年は凍らなかつた。第二次世界大戦末期にハリコフ（今はハルキウ）を巡ってナチスドイツの部隊と旧ソ連の部隊が戦ったが、4回に渡って泥の時期に戦闘をやめている。戦車が動けないくらい泥がすごいからである。今回のロシアは、その「泥將軍」に負けた面があるのだ。

ウクライナの善戦にも秘密がある。2014年にクリミア半島をロシアに無血併合された。あの段階ではウクライナ軍は125,000人いたが、使い物になったのは5,000人だけだった。全くダメでアメリカはびっくりした。それは国としてウクライナは破綻国家だったからである。政治が混乱した。元々旧ソ連の兵器をつくる役割の国でもあったから、それを世界中に売って金儲けしようという犯罪集団みたいな連中が跳梁跋扈する。北朝鮮のミサイル開発には相当ウクライナの技術が入っている。だから軍隊も墮落する。ウクライナを立て直さないとロシアと西側との間の緩衝国家として使えないため、立て直すためにアメリカは特に厳しくウクライナと向き合った。「ちゃんとしないと援助しない。軍隊についても、ミサイルも戦車も戦闘機もやらない。今持っている兵器を使いこなせるようになれ、組織も人事もたたき直せ」と徹底した。その中で郷土防衛軍のような民兵組織もできた。今ウクライナの国民の半分くらいが戦力化できるようなレベルになっている。

そのようなウクライナ戦争だが、ウクライナ軍は元々ソ連軍なので、ロシア軍の考え方がわかっているというのも善戦の秘密だ。

ロシア軍は訓練もできていない徴兵された若い兵隊ばかりだから、みな死んだり、逃亡したり、降伏したりしているとマスコミは説明している。もちろんそういう面もあるが、ウクライナ側に計画的にやられた面があることは知っておいた方がよい。ロシアの軍隊、旧ソ連の軍隊は、上が命じないと動けない。自分たちで考えて動く訓練を受けていない。それに対しアメリカ軍は5、6人の集団でも自分たちで創意工夫して動けるような訓練をしている。会社で社長が指示を出さなければ下が動かなければ会社はつぶれる。ロシア軍はそういったところがあるため、ウクライナ側は会社に例えると部課長以上と取締役クラスの指揮官を狙っていった。そのためロシア軍はガタガタになった。そんな中でこれから、朝鮮戦争型の停戦にいたるのか、やらないとは思いますがロシアが核兵器に手をかけるのか予断は許さない。早く終わってウクライナの人たちの苦しみがなくなるように、日本経済にも良い方向が見えてくるようにしてほしいと思っている。

台湾統一について、中国の習近平国家主席は、去年10月の共産党大会で「武力行使という選択肢は残す」と強調していたが、3月の全人代では「平和統一」という言葉をまた戻してきた。この数年は、この文字を削っていた。それはイメージをよくしようというだけでなく、実際に武力をつかって台湾をとろうとしたら大変なことになることをわかっているからである。米軍の提督や自衛隊のOBでも軽々しく中国軍が台

湾に上陸するという人がいるが、それは大規模上陸作戦のことを学んでいない人たちだ。台湾を軍事占領するにはノルマンディー上陸作戦に匹敵する100万人以上の陸軍を投入しなければならない。その兵力を輸送するための3,000万～5,000万トンの船腹量を中国は捻出できない。輸送船があったとしても、それを守るための海空軍の能力が十分ではない。ハイテク化されるほどにデータ中継能力などの軍事インフラが備わっていないと戦えないが、その面から中国軍を見ると米軍より20年ほど後れている。それを習近平国家主席は自覚している。

それでも中国軍は、台湾が独立を宣言したりすると国家のメンツの問題があるから国際的に孤立しようとも暴れると言う。作戦が失敗するのはわかっているも暴れると言う。そうなれば日本にも火の粉が飛ぶ。だから日本の政治家が台湾独立を煽るようなことを言うことはやめてほしいと、彼らは言っている。

それに対しては、火の粉がふりかかるようだったら、こちらは火事にならないように払わなければならないので、日米台できちんと備えればいい。

彼らは上陸作戦ができないから、労せずして台湾が手に入るようハイブリッド戦の方向に動いている。戦わずして勝つというのは、古代中国の戦略の書・孫子が有名だが、それである。

台湾に中国寄りの世論が生まれてくるように、いろいろな角度から働きかける。そして、中国寄りと台湾独立派が拮抗して国内で衝突が起きる。そういう混乱が生まれたら、政治・経済・軍事の中枢をミサイル攻撃する。これを斬首戦というが、そういう中で中国寄りの傀儡政権を樹立し、国際社会が手を出せないでいるうちに既成事実化していく。

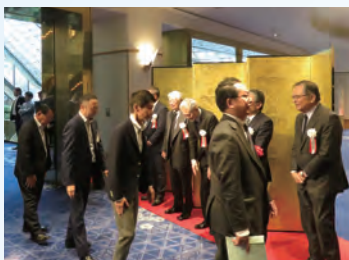
できれば、それもやらずに熟柿が落ちるように手に入れたいというのが中国の立場だ。一方、そういうことをやらせないようにするのが日本側の基本である。中国には、建国100周年の2049年までにアメリカを追い抜くという国家目標がある。それまでにつまずいて転ぶわけにはいかない。だから、専門的にいうと中国は安全運転中である。日本人は軍事に慣れていないから、中国が拳を振り上げると条件反射的に怯む傾向があるが、そういうことに振り回されてはいけない。正しく恐れ、正しく備えよ。これが安全保障の基本である。台湾有事もそうだが、表面的な報道に振り回されないように、本当はどうだろうかというところをきちんとみていく癖をつける必要がある。

同時に、日本には隣国である中国が脅威にならないような戦略的な関わりが必要となる。軍事的能力では絶対に追いつかれないように防衛力整備をするし、アメリカとの同盟関係を深めていく。しかし一方では、中国に日本に対する敵意が生まれにくくなるような戦略的な関わりをする。日本との関りなしには中国は生きていけないような関わりが増えるほどに敵意は生まれにくくなる。同時に軍事的な能力では常に水を開けているのだから脅威にならない。そういったことができないと日本は、世界から一人前の国ではないと思われる。皆さん方のような方がいらっしゃるから、私はまったく心配していない。日本はそれなりにやっていけると考えている。さらに日本の政治が外交、安全保障、危機管理について世界に通用するレベルを目指すことができるように、経済界の立場から後押ししていただきたい。その辺をお願いして、私の話を終えます。

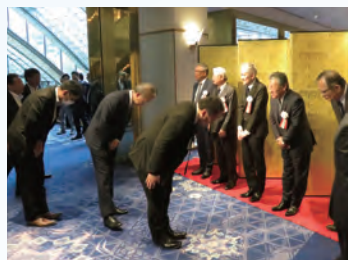
## ～ 懇親パーティ～



日工販役員



日工販役員によるお出迎え



### 主催者挨拶

### 日本工作機械販売協会 会長 高田 研至

日頃は日本工作機械販売協会の活動に対しまして、ご理解ご協力を頂きまして誠に有難うございます。第54回通常総会にて会長を拝命致しました事、改めて身の引き締まる思いであります。2年間しっかり会長職をまっとうしてまいります。会員各位のさらなるご協力をお願い致します。

3年以上続いたコロナウイルスもようやく2類から5類へと移行し、通常の生活に戻りつつありますが、その時から一気にデジタル化も進み、デジタルとリアルの融合によるハイブリッドな生活、仕事へと大きく変化してまいりました。

世界においても、米中の覇権争いによる貿易摩擦、昨年の初頭にはロシアによるウクライナ侵攻などの地政学的なリスク、そして、現在では欧米を中心とした民主主義陣営と中国、ロシアなどの権威主義連合に二分され、インド、ブラジル等のグローバルサウスなどの非同盟中立国が影響力を強め、世界情勢は先が見えない混沌とした状況となっております。

経済的においても、保護主義の台頭、エネルギー問題、半導体、半導体製造装置などの輸出規制、為替問題、急激なインフレ、人手不足など今まで以上に不透明感が増しております。そして、地球環境問題を含めたSDGs対応は緊々に対応にせまられている状況が現在であります。

日工販と致しましても、SDGsに対して積極的に取り組み、各社におきましても今迄以上の取り組みをお願い致します。

さて、当協会も昨年、2年遅れでありましたが50周年記念式典を開催出来ました事は非常に嬉しく思っています。また、各地区での勉強会、懇親忘年会、工場見学会等を始めとする様々な事業、そして、JIMTOFが開催され、面直による情報量の多さ、一方では、デジタルによるスピード感を実感し、協会の活動も一段とハイブリッド化していく必要性を感じています。昨年の総会にて会長に就任以来、教育事業の重要性を訴えて、Webの活用による規模拡大、新しいカリキュラムの採用、内容の充実を目指しましたが、まだまだ道半ばである中で、多くの会員様にSE教育を受講して頂きまして有難うございます。



年頭には日工販会長としての目標数字を発表させて頂きました。

内需3% UPの6,400億円、全体では1兆7,500億円と発表させて頂きましたが、今年も5月迄過ぎ、皆様方はどの様に感じているでしょうか。皆様方の感覚では設備投資は非常に厳しく感じ、私もこれは思ったより厳しく大外しをしたかと思っていましたが、データを比較してみるとそれ程厳しい数字ではないのです。

年頭にもお話ししましたが、2023年の上期は厳しい予測で、昨年の下期後半の数字と同様な数字を予測致しました。

内需の昨年10～12月の数字は1,325億円、本年1～3月の数字は1,317億円と99.4%。総額では昨年10月～12月4,158億円、本年1～3月は3,942億円と94.8%となります。もちろん3月の期末の数字が押し上げている事もありますが、感覚よりも数字は厳しくありません。もう少し内需を細かく分析すると、自動車向けが伸びていない事が数字を下げている要因であります。

少し話は外れますが、トヨタ系Tier1の会社が予測する自動車生産台数は、2035年が約1兆300万台とそれ程伸びなく、BEVは2020年に2035年を予測した台数が3,000万台でしたが、現在予測している台数は6,000万台と2倍となり大幅に変更されています。

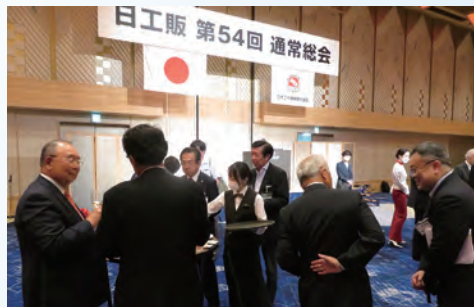
ではこれからの工作機械受注の予測ですが、7月頃から回復傾向に向かい10月には前年比プラスになると予測致します。

内需において、現在抑えられている半導体製造装置向けの回復、自動車関連もBEV関連投資が遅れていましたが、ある程度部品も固まってきて投資に向う、一般機械は現状維持、航空・防衛関連も増加という事により、概ね前年の好調時の数字になると期待しています。

そして、日工会殿が取組んでいる「グリーン」「デジタル」「レジリエンス」の3分野をしっかりと理解し、共に業界の発展を目指したいものです。

日工販の会長に就任して以来、強く目指している教育事業の拡充をこの2年間でしっかり進めることと、各地区での事業をいままでの1.5倍の頻度で、各地区の委員長は大変ですが、ぜひ頑張ってもらいたいと思っております。これについては予算も増額しましたが、それ以上に使って頂いて結構ですので、是非各地区での事業の拡充をお願いしたいと思います。

最後になりますが、本日お集まりの皆様の会社のご繁栄と皆様のご健勝を祈念してご挨拶とさせて頂きます。本日は楽しんでください。ありがとうございます。



懇親パーティの様子

来賓ご挨拶 ① 経済産業省 産業機械課 課長 安田 篤様

ただいまご紹介に与りました経済産業省 産業機械課の安田と申します。

本日は日工販様の総会後の懇親パーティにお招きいただきまして誠にありがとうございます。開催にあたりましてひとことお祝いのご挨拶をさせていただければと思います。

さて足元の日本経済の状況でございますけれども、力強い国内投資が戻ってきてまいりました。また賃上げの傾向も強まっているということでございまして、日本経済前向きの変化の兆しが見えてきているという風に感じているところでございます。こうした前向きの変化の兆しをチャンスととらえまして、経済産業省としても政策を動員いたしまして、生産性の向上、あるいは消費の拡大につなげていき、さらに経済を活性化させていきたいと考えているところでございます。そうした中、この工作機械を巡る状況につきましては、日本のものづくり現場、そしてグローバルなものづくり現場において、DXあるいはGXという流れが進んでいると感じております。DXということで申し上げますと、データを連携させるであるとか、IoT、AIを使っていく、さらには予知保全を行う。こういったことがユーザーの現場で進んでいると感じております。またGXという意味では、生産プロセスをより省資源化、CO<sub>2</sub>を排出しないようなプロセスに変えていく、というところに工作機械の役割は大きく貢献しておりますし、また工作機械がつくるものについても小型、軽量、低振動といった特性を実現するべく、工作機械がより複雑な加工をしていく必要があるという風に感じています。まさにそうしたユーザーの現場でおきているDXあるいはGXの流れという最新の状況をとらえていただいているのが、皆さま方の業界であると考えていますので、是非こうしたユーザーサイドでの問題の解決に我々としても精一杯後押しをさせていただければと思いますので、日工販の取り組みと連携していきたいと考えているところでございます。特に日工販が進めていらっしゃる人材育成、すなわちセールスエンジニアの教育制度、これは非常に重要な取り組みでございまして、ユーザーの状況を的確に把握するという意味で、是非この人材育成の取り組みの継続発展をしていただければ大変幸いです。

また政府の方では昨年末に工作機械を経済安全保障推進法の特定重要物資に指定いたしました。この工作機械を巡る状況はグローバルにも非常に重要な位置づけをもってまいります。ぜひ今年も皆さま方の取り組みと連携して、この工作機械、ものづくり現場の発展に向けて取り組みをしたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

結びになりますけれども、日工販そして会員企業の皆さまの益々のご発展と本日ご列席の皆さまのご多幸とご健勝を祈念させていただきまして、私からのお祝いのご挨拶とさせていただきます。本日は誠に



## 来賓ご挨拶 ② 一般社団法人日本工作機械工業会 会長 稲葉 善治様

ただいま紹介いただきました日本工作機械工業会 会長の稲葉でございます。本日は日本工作機械販売協会様の懇親パーティーにお招きいただきまして、誠にありがとうございます。また平素は私共、工作機械メーカーの製品販売に格別なご尽力を賜り誠にありがとうございます。

米中対立やロシアのウクライナ侵攻になどにより地政学的リスクが高まり、先行き不透明な状況が続いております。このような中、先日のG7広島サミットが開催され、G7メンバーに加え、韓国、オーストラリア、グローバルサウスの首脳、そしてウクライナのゼレンスキー大統領などが広島に集結されました。核兵器の不使用、中国との関係、経済安全保障など、様々なテーマについて議論され、大変意義深いサミットになったと存じます。さて4月の工作機械受注総額は、前年同月比マイナス14.4%の1,327億円となりました。昨年度は、過去二番目の受注額であったこともあり、前年度比では減少していますが、本年に入ってから、月平均1,300億円の受注を獲得しております。足元の工作機械受注は緩やかな調整局面にありながらも高水準を維持していると言えるのではないのでしょうか。

現在、製造業では環境対応、自動化、サプライチェーンの構築といったグリーン、デジタル、レジリエンスへの対応が求められており、これらに関する需要が現在の工作機械の受注を下支えしているものと思われます。この局面において、我々メーカーでは、省エネ、自動化、デジタル対応などユーザーニーズに沿った工作機械をお届けするために日夜全力で開発を進めております。販売の最前線におられる工作機械販売協会の皆さま方におかれましては、現場の声を我々メーカーに是非ともフィードバックいただき、より競争力のある商品をお届けできるよう、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。我々工作機械産業が引き続き大きく成長していくためには、製造メーカーと販売会社の皆さまの協力が不可欠でございます。製造と販売は、車の両輪によく例えられます。私どもは日本工作機械販売協会の皆さまとの連携を一段と強化し、共に手を携えて我が国のものづくりに貢献してまいりたいと存じます。従来にも増してご協力ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、日本工作機械販売協会の一層のご発展と本日までご出席されている皆さま方の益々のご健勝ご繁栄を心からご祈念申し上げまして私の挨拶といたします。本日は誠にありがとうございます。



懇親パーティーの様子

乾杯のご発声 日本工作機械輸入協会 会長 井元 英裕様

日本工作機械輸入協会の井元でございます。ご指名によりまして、乾杯のご挨拶をさせていただきます。本日は高田会長の再任おめでとうございます。また小川先生の有意義なお話を聞かせていただいて、少し安心したのか、不安になったのかわからないですが、これからも我々日本人として、プライドをもって自信をもって行動していけばなんとかなるんじゃないかというふうに、私としては感じさせていただきました。ありがとうございます。



昨今コロナもだいぶ落ちついて、日常生活も取り戻してきたかなというふうに思いますが、先程のお話にもありましたが、まだまだウクライナ問題、台湾問題、米中問題、円安の問題といろいろ悩みが多く、なかなか安心できるような状況ではないという風に思っております。ただこの中で、最近日本の株価がどんどん上がってきていることで、これは世界が日本のものづくりの再生といえますか、非常に期待をしているんじゃないかという気がしております。その再生を担って日本のものづくりを支えていらっしゃるの日本工作機械販売協会の会員の皆さまであらうと思っております。

少し宣伝になるのですが、私ども日本工作機械輸入協会も、世界のユニークな商材をニッチな世界にもお届けをしています。ぜひ日工販の皆さまのお力を今後もいただきまして、私どもも日本のものづくりに貢献させていただきたいと思っていますので、ぜひ今後ともご指導ご鞭撻のほどお願いしたいと思います。

それでは乾杯の音頭をとらせていただきますのでご唱和をお願いいたします。

日本工作機械販売協会会員の皆さま、本日もご参加の皆さまのご健康とご発展を祈念いたしまして乾杯！（乾杯）



乾杯！

中締め 日本工作機械販売協会 副会長 池浦 捷行

宴たけなわでございますが、ご指名で中締めのご挨拶をさせていただきます。

今日はお忙しい中、皆さまご臨席賜りまして本当にありがとうございます。当日本工作機械販売協会も昨年2年間コロナで延期させられていました50周年記念行事をようやく開催することができました。その際も皆さま方のご臨席を賜りまして誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。





実は先ほど会長からも申し上げたのですが、我々日工販として目玉にしているのはSE講座でございます。日工販SE教育というのは、50年にはなりませんけど非常に深い長い歴史をもっております。数字を申し上げると一番わかりやすいと思います。日工販SE教育のこれまでの受講者ですが、基礎講座が2,786名、4,385名がSE講座、そして更新研修が1,855名。実に累計でいきますと、昨年さらに伸びまして10,397名。認証取得者も96名増えまして3,891名。こういう数字を大変長い間かけて作ってまいりました。現在、日工販SE教育の各講座を受講されている方は必ずしも会員だけではなくて非常に幅広いです。もちろん賛助会員の方もいらっしゃいますし、どこにも所属していない方も日工販SE教育だけは受けるという会社もございます。

日工販というのは、元々こういうことが得意だったわけではないのです。実はその必要性は長く感じていまして、いわゆる営業社員の職業能力を向上させたいという思いは、経営者の誰しもが思っております。ただ恵まれたのは、本日日本工作機械工業会の稲葉会長においでいただいておりますが、この日工販は日本工作機械工業会の長い歴史をもっておられる技術者の皆さま方が講師になって我々にご指導くださっている、ただ技術的なことだけではなく、長い年月業界におられた中で培ってこられた人となりをも含めて、そういうお話が受講者の皆さんは聞けるという、これは大変ラッキーなこととして、そういう意味で受講していただくことの価値がますます深くなるということでございます。

私ども日工販の事業活動はもちろんSE教育だけではございませんが、今日も日本工業大学の清水先生にもご臨席いただいておりますように、本当に皆さんに助けられて、そして業界の発展のために、こうやって教育を始めとした事業をやることができている、このことに深く感謝をしております。どうか日本工作機械販売協会の会員の皆さま方とメーカー共々、日本の工作機械業界が発展していきますように、さらなるご尽力を賜りたいと思います。

簡単ではございますが、中締めのご挨拶にさせていただきます。本日は本当にご多忙の中、ありがとうございました。どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。



懇親パーティの様子



当日受付業務をご支援いただいた皆様



会場アテンダントの皆様

# 分かりやすい話題の技術

No.  
185

## Saving Center「SV130 & SH350」 省スペース・省エネルギー・自動化の紹介



エンシュウ株式会社  
開発部  
理事・部長

久米 憲一

### 1. はじめに

現在、自動車は100年に一度の変革期を迎えているといわれている。自動車はモノづくりの裾野が広く、また市場の大きさから製造現場への影響が大きい。重ねて労働力不足、電気代や原材料の高騰、CO<sub>2</sub>排出量の削減など、製造現場は解決すべき様々な課題を抱えている。

とくに、CO<sub>2</sub>排出量の削減は世界的な取り組みが進んでいる。日本政府は2020年10月に2050年までのカーボンニュートラル達成を宣言し、その実現に向けて地方自治体や企業において様々な取り組みが行われている。

そのような社会背景の中、弊社は、小型マシニングセンタ「Saving Center」シリーズ 立形 #15 テーパ「SV130」と横形 #30 テーパ「SH350」の2機種を開発した。



1 : SV130 標準仕様



2 : SH350 標準仕様

## 2. Saving Center の 4 つの特徴について

- ① 設置スペースを「Saving」  
単位面積当たりの仕事量向上。
- ② 機械高さを「Saving」  
設備の高さを抑えることで、メンテナンス性を向上。天井が低い工場や、間口の狭い研究所などの建屋でも搬入・設置が可能。
- ③ 設備投資コストを「Saving」  
従来以上に本体設備コストを抑えることで、周辺機器や治具などに充てることができる。
- ④ 消費エネルギーを「Saving」  
設備に使用するエネルギーを抑えることで、CO<sub>2</sub>排出量の削減に貢献する。

## 3. 弊社が提案する特別仕様



1 : SV130 2APC 仕様



2 : 5 軸仕様 & 5 万回転高速主軸仕様



3 : SH350 X = 1200 仕様 (参考出展)



4 : SH350 E-Loader 仕様

## 4. おわりに ~『Saving Center』シリーズ~

今回は、省スペース、省エネルギー、自動化を目指した機種を紹介させていただきましたが、弊社が100余年間で培ってきたノウハウを生かし、お客様の多様化するニーズに新しい提案をお届けしてまいります。



ホームページ  
紹介ページ



Sシリーズ  
仕様動画

# 分かりやすい 話題の技術

No.  
186

## CNC横型ホブ盤「N70」のご紹介



浜井産業株式会社  
技術部 設計技術グループ  
主任研究員

柿 沼 秀 明

当社、浜井産業株式会社は、半導体シリコンウェーハやSiCパワー半導体ウェーハ加工などの分野において、ラップ盤・ポリッシュ盤メーカーとしての地位を確立しております。一方、歯車業界においても、創業時より小型ホブ盤メーカーとして広く認知いただいております。従来からのラインナップとして、CNC横型ホブ盤Nシリーズ（N40、N60、N80）の3機種があり、時計や釣具用から減速機や自動車向けまで、主に小型～中型歯車の業界で高い評価をいただいております。このたび、これらのラインナップの新たな機種として、主にEV業界のお客様向けに「N70」を開発し、昨年開催されたJIMTOF2022にガントリーローダー付属で出展いたしました。



写真1：JIMTOF2022でのN70



写真2：N70で加工した歯車

## 1. コンセプト

N70は、N60をベースに機械剛性や操作性、自動化の効率性向上などを目的として開発し、機械サイズは同等以下に抑えながら、全体的にスペックを向上させることをコンセプトとしました。

## 2. 機械剛性

構造解析ソフトにより、特に鋳造部品に対して振動や荷重による影響を考慮した形状にする事で、N60よりも大幅な剛性UPを実現しました。ベッドの形状に関しましては、剛性面だけではなくドライ加工時の切粉処理にも重点を置き、切粉が堆積しづらい形状にする事でメンテナンス性を向上させました。また、従来機からの特徴として、ホブ軸と主軸をビルトインモーターによる直結構造としていますが、モータートルクを大幅にUPさせる事で最大切削モジュール2.5の歯車でも無理なく高速・高送り加工が可能になりました。

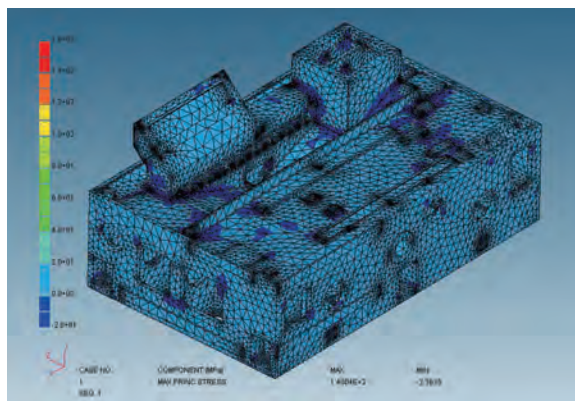


図 1：構造解析ソフトを使った設計

## 3. 操作性

FANUC FS31i-B Plus の15" タッチパネルを採用することで、ほぼ全ての操作を画面上で行えるようにしました。これにより押しボタンやランプを必要最低限まで減らす事ができ、見やすく、すっきりとした操作盤になりました。

また、加工の際に必要なデータを設定する対話マクロ入力画面のリニューアルにも着手し、グラフィック画像と説明文の表示に加え、アイコン画像を多用する事で誰にでも分かりやすいレイアウトとしました。

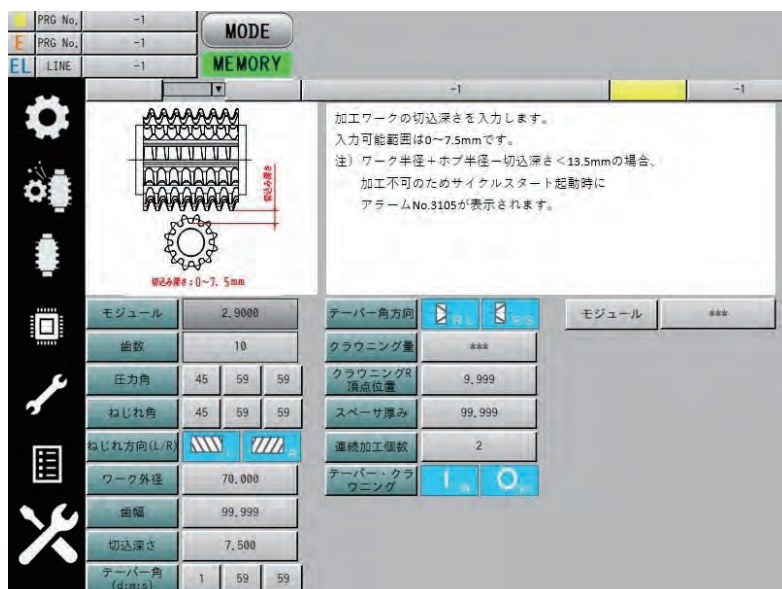


図 2：N70 対話マクロ入力画面（一部）

#### 4. 自動化

自動化の効率性向上のため、ホブ軸にスラント型を採用することにより、ガントリーローダー仕様でのローディングの際に、最短距離でワーク脱着が行えるようにしました。これにより従来機よりもワーク脱着にかかる時間短縮が見込め、加工時間を含めたトータルでのサイクルタイム短縮に繋がりました。多関節ロボット仕様の場合でも、ホブ軸にスラント角度が付いている事により、ロボットアームの可動領域が広がりますので、干渉を回避するための無駄な動作が減りティーチング作業も容易になりました。

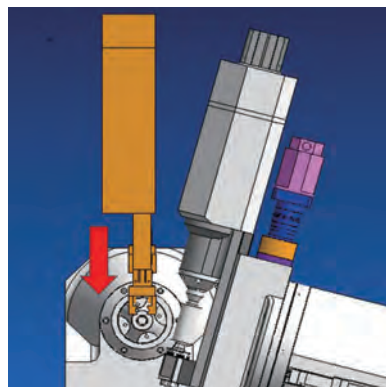


図 3 : N70 のガントリーローダー動作

#### 5. 新たな機能

今回、新たな機能として、テールストック動作をサーボモーターによるトルク制御方式としました。推力値は操作画面より入力する事により簡単に設定出来ます。これにより、使用可能な推力領域が増え、今まで対応できなかった高圧力にも対応できるようになりました。結果、より高精度・高生産性が求められる EV 用歯車にも適した装置が出来上がったと考えております。

以上、当社の新製品である CNC 横型ホブ盤「N70」のご紹介をさせて頂きました。今後も新しい技術にチャレンジするとともに、積極的にアップデートを実施し、より良い機械にしていきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

# リレー随筆



安田工業株式会社  
営業本部 国内営業部  
名古屋営業所

大川 怜



皆様、初めまして。安田工業株式会社 名古屋営業所に所属しております大川 怜と申します。

この度、三菱商事テクノス株式会社の井上様より、伝統ある「リレー随筆」のバトンを回して頂きました。

今回、伝統ある「リレー随筆」を受けた際に、皆様に何をお伝えしようか、内容はどのようなか、かなり迷いました。

そこで、皆様に観てもらえるのであれば、私自身のことを知っていただこう！と考え、この場をお借りして、自己紹介をさせていただきます。

兵庫県神戸市生まれ、神戸市（西区）育ちの生粋のシティボーイの今年27歳独身。

安田工業に入社してから早5年目、営業配属となつてからは2年が経ち、あっという間に3年目となりました。

大学で岡山理科大学に進み、そこで安田工業に出会い、一目惚れしてしまい、安田工業に入社を致しました。入社当時から工作機械とはなんぞやといった状態から始まったため、ついていくのに必死でした。

今でも変わらず、まだまだ分からない事が多く勉強の日々です。

特に苦勞しているのが、最新の設備と20~30年前の機種との、仕様の違いを覚えることです。

今は静岡県をメインで担当していますが、多くのお客様が20~30年前の機種をご使用されています。設備計画がある際、20~30年前の機種と最新の機種は何か違うのか？をしっかりと説明しなければいけません。

ソフトウェア面はもちろん、構造が変わっているのか？など細かい仕様のところまで把握してお

かなければ、お客様に納得頂ける説明ができませんとつくづく実感しています。

まだまだ若輩者ではありますが、今後皆様とお仕事させて頂く際に、少しでもお力になれるように励んでまいります。

さて、真面目なお話をさせて頂きましたが、話題を変え、私の趣味についてご紹介させていただきます。

名古屋営業所に配属されて3年目となりますが、今の生活での3本柱ですが「ゴルフ・婚活・ゲーム」です。この中で、今回ご紹介させて頂くのが、ゴルフです。

昨年コロナ期間中に2か月ほどレッスンに通っていましたが、本気で取り組み始めたのは今年からです。

理由は、とある商社さんのコンペにて150越えのスコアをたたき出し、なんと下から2番目という順位を獲得してしまいました。なんとも不甲斐ない結果を出してしまい、非常に悔しく、次回は100切りしてやるぞ！という思いから日夜練習に励んでいます。今はスコア109まで伸ばせましたが、100切りの壁に悩んでおります。

尊敬する諸先輩方からゴルフで機械を売ってきたなどのお話を聞くと、自分もまだまだだな~と思い知らされました。

ゴルフで機械が売れる立派な営業マンになるべく、これからも励んでいきたいと思えます。

ゴルフをやられている方で100切りした際の練習方法などありましたら、是非ご教示いただけると助かります。

▶次にバトンを受け取ってくれるのは、ユアサ商事株式会社の 原 駿哉 様です。笑顔の素敵な好青年です。



## 私の 読書評

# 「病気になる 夜9時からの粗食ごはん」

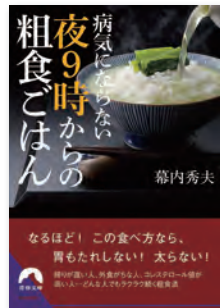
著者：幕内秀夫

(出版：青春出版社)

共働きの私たちに子供が生まれ、成長するにつれ、子供の偏食について悩んでいたことがありました。あまりに野菜を食べないため、食事を作るのにも苦勞し、また、どうして食べないんだ！と叱ってしまう事もありました。

その時に幕内秀夫 著「子供が野菜嫌いで何が悪い！」という本に出会い、本当に目から鱗が落ちたような思いをしたことがあります。

今回、「私の読書評」への寄稿依頼を受け、私が紹介させてもらいたい本は、同じ幕内秀夫 著の「病気になる夜9時からの粗食ごはん」です。



若いころから夜型の生活があたりまえで、社会人になっても朝ご飯は食べず、昼はラーメンと炒飯、夜遅くまで働いて帰宅後、お腹いっぱいになるまでドカ食い、消化しないうちに眠りにつき、また朝ごはん抜きで出勤する。といった生活習慣の繰り返しになっていました。

若いころはそれでも問題なく、毎日を過ごしていましたが、40歳を超え翌朝起きても疲れがとれず、胃も重たいと感じるようになり、会社の健康診断でも高血圧や高脂血症だと診断されるようになりました。

昼食をサラダにしてみたり、減塩の調味料を使ってみたりといろいろやってみたのですが、やはり続きません。ライフスタイルというのはなかなか変えられないと半ばあきらめておりました。

そんな時にこの本を読み、ラクに考えられるようになりました。

炭水化物を抜かなければ、減塩しなければ、間食やコーヒーをやめなければ、外食を控えなければ、夜6時までに夕食を食べなければ、といったサラリーマンにとっての無理難題を、いろいろな立場の人に沿った形で、無理のない提案が紹介されています。

私は脂っこい昼食も、会社の仲間や友人との飲み会も、家族での外食も好きです。

全てを制限し、健康に生きるといったことはできないと思っています。

だからこそラクに続けられる食事法を見つけ、自分にあった食事法を身につけていきたいと思いました。

私と同じように健康も飲み会も譲れないという人にはぜひ一度読んでいただきたい一冊になっています。



株式会社ダイイチテクノス  
機械部 係長

古木 琢也





## 私の 健康法



株式会社日進製作所  
生産システム営業部  
国内営業課  
名古屋ランチ

小栗正道

日進製作所国内営業課所属の小栗と申します。あなたにとっての健康法は？と聞かれた時、さて何だろう、紹介できる様なものはあったかなというのが正直なところです。強いて言葉に表すなら、ヨガストレッチ、たまにするサイクリング、そして野菜を意識した腹八分目の食事といったところでしょうか。

もともと運動が得意ではなかった私は、若い頃は忙しくて疲れているからとあえて運動に時間を割くこともありませんでした。それでも健康の為にサイクリング、ウォーキング、水泳など挑戦しました。でもどれも継続するものは、ありませんでした。ですから御多分にもれず年齢と共にお腹周りはふくよかにメタボ寸前となりました。

50代後半に3年半工場勤務を経験しましたが、私の周りにフルマラソンをする30～40代の方が4人、更に100Km マラソンの鉄人も数人、登山、サッカーや野球のコーチなど強者ぞろい。私には真似の出来ない話で「皆さん頑張っているね」程度にしか思えませんでした。しかしある時、OBで元上司からの「60歳を過ぎると急に体力が落ちて体を壊す」という助言が改めて健康維持について考え直すきっかけとなりました。

定年後、地元愛知県での勤務に戻り、久しぶりに家の近くを3時間ほどサイクリングしたところ、脚全体の血液循環が良くなったすがすがしさを実感しました。運動の高揚感がこれなのでしょう。運動をしない私でしたが、それから唯一好きな自転車を走らせサイクリングで心身をリフレッシュさせることにしました。さらにYoutubeの「初歩のヨガ」を試しにやってみたところ全身の血液の循環が良くなった事がわかりました。これを機に我流ですがヨガを毎週末の午後に1時間ほど頑張ってみました。が、これも慣れてくるにつれ継続が怪しくなってきました。何か良い方法はないかと考えていましたが、偶然、就寝前にヨガをしたところ血液循環が良くなったことで布団に入ってから朝まで一気に眠れるようになりました。夜中に目が覚めることも無くなり、習慣化することが出来、やっと「継続する」にたどりつきました。最近ではヨガにストレッチを加えて14種類の形を30分ほどかけて行っています。

さて食生活については妻が野菜中心、肉、魚とミネラル等バランスのとれた献立を考えてくれています。これを腹八分目で心がけています。お酒はあまり強くないので週2日から1日に減らしました。

でもいつも優等生でいることは難しいですね。焼き鳥で立ち飲み等は気晴らしになるので誘惑に負けませんが、68歳ともなると回復も遅いのでほどほどにしています。最近会社の安全環境管理課からの「健康ひろば」で「まごわやさしい」を紹介していました(QRコード参照)。一言でいえば量を少なく種類を多くなのですね。

このような血液循環促進をめざした私の健康法は、まだ完全ではないので、工夫していきますが、柔軟性向上、筋力増強も加えていこうと思います。また仕事も楽しくするためには頭の柔軟性を向上させることが必要ですね。日進製作所でお世話になるのもあと少しですが、健康で楽しく仕事をしたいと思います。

ありがとうございました。



Lepeel Organics Journal

食品の栄養 2020.01.24 (最終更新日 2021.02.17)

# 会社生活に 於ける 私の初〇〇



双日マシナリー株式会社  
モビリティ本部  
モビリティ第三部第一課  
鈴木 滉大

## 初の海外出張

皆様初めまして。双日マシナリー株式会社の鈴木と申します。入社時からインド向けにマシニングセンターや部品検査機械の輸出案件を担当して、現在は業界の異なるインドの客先向けに部品組立装置の輸出案件を担当しています。また装置の輸出版売だけでなく、装置立上に向けてインドに渡航されるメーカー SV の VISA 手配等の渡航支援も入社時から現在まで担当しています。



〔向かって左端が筆者〕

その中で入社3年目を迎えた時にインドへの初出張が決まりました。それまでは先輩方がメーカー SV と共にインドへ出張している傍ら、私は国内で仕様打合せや価格交渉、見積・出荷書類作成等のデスクワークが中心でしたので少し歯痒い思いがありました。その為、インド出張が決まった際は初の海外出張という事で渡航前の準備を客先やメーカーと共に入念に行った事を今でも記憶しています。しかし、渡航日が近づくにつれ、インドのコロナ状況が徐々に悪化し、お客様からもインドへの渡航中止の連絡を受け、初の海外出張が中止になったことは、とても悔しかったです。

その6か月後にインド渡航が改めて決定したのですが、問題が起きました。お客様からは SV に来て欲しいとの要請を受け一方で、メーカーの社内方針で海外への渡航は禁止されたままでした。メーカー SV がいなくても、装置を何としても立ち上げねばならず、弊社がメーカーに代わり渡航するという異例の海外出張となりました。SV 不在の中で装置立上を完遂させる為に、これまでになかった新たなビジネススキーム「リモート SV」を構築しました。日本にいる SV と WEB 会議を繋いだまま電話越しに指示をもらい、その指示を私が現地で起用したインド人エンジニアへ正確に伝え、共に装置を立ち上げるスキームです。これまで実施した事の無いリモート SV だったので、当初は遠隔指示による作業効率の悪さ、インドの気候や通信状況等の外的環境で大変苦労しました。しかし弊社インド法人の日本人駐在員の方にも工事開始当初から支援を受け、リモート SV の進め方のコツが掴めるようになりました。その結果、リモート SV 中盤以降はインド人エンジニアと共に期日通りに、時には期日より前倒しで各装置を立ち上げる事が出来ました。帰国の際にはお客様より「コロナ禍で SV が渡航不可にも関わらず、インドでの工事を完遂させて頂き感謝している。ありがとう」と感謝の言葉を頂きました。3か月間の出張終わりの帰国便でこの言葉を思い出し、大きな達成感を味わいました。また初の海外出張だったという事もあり、当時から2年経過した今でも頂いたこの感謝の言葉を鮮明に覚えております。

入社4年目の途中からこれまでとは異なる分野の装置を取り扱う部署に異動しました。業界・商材は大きく異なるものの、インドの会社向けの輸出案件を担当しております。

23年度もインドへの出張を予定していますので、初インド出張の経験を活用して、今後のインド案件・海外出張に尽力する所存です。



# 感動した スポーツの **名場面**



## 「WBC決勝戦」



株式会社三機  
FA営業部 MR課  
**菅原 峻**

「憧れるのをやめましょう」

2023年3月22日、WBCの決勝戦、日本 vs アメリカでの試合直前のロッカールームで、日本代表の大谷翔平選手は、そうコメントしました。

アメリカ代表の超有名選手達への憧れを、今日1日だけは捨てて勝つことだけを考えるという、大谷翔平選手からチームメイトに発破をかけるメッセージにより、より一層、侍ジャパンが一丸となった雰囲気を感じました。

試合開始後、試合が動いたのは2回表。

アメリカにソロホームランを打たれ、先制点を許しました。

しかし、その裏の日本で、先頭の村上宗隆選手が、特大ソロホームランで、すぐさま追いついたのです。回を重ね、一進一退の攻防が続き、やがて3-2と、1点リードで迎えた最終回。

大谷翔平選手が満を持して登板。

日本中が息を呑んで見守る中、1アウトをとり、2アウトまで奪いました。

最後の打者として、エンゼルスของทีมメイトである、キャプテン M.トラウトが打席に立ちました。

そして、最後は空振り三振で仕留め、雄叫びを上げたのです。

まるでドラマのようなエンディングで WBC を締めくくり、優勝を決めたシーンが非常に印象的でした。



今回の日本代表メンバー全30選手の年齢層をみると、平均年齢は26.3歳との事です。私(27歳)と同世代もしくは年下の選手も多く、活躍している姿から多くの刺激を頂きました。

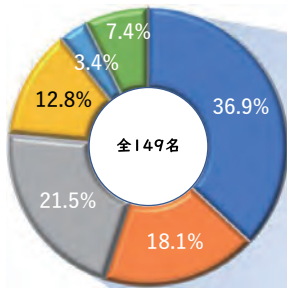
私自身も、より一層仕事に精を出し、日々邁進していきたく思います。

## 2023年度日工販SE教育「基礎講座」報告

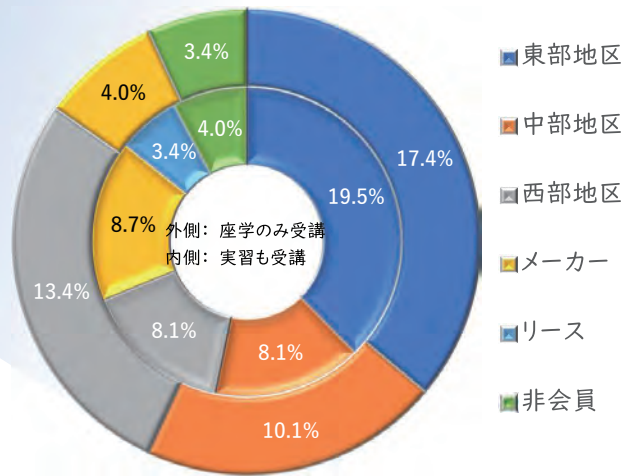
2023年度の「基礎講座」は、昨年度の開講体系を踏襲し、去る6月1日（木）～30日（金）の1か月に亘り、ビデオ配信講義に加え、希望者には日本工業大学工業技術博物館の施設内において実習を取り入れた講習といたしました。

総勢 149名となり、基礎講座開講以来最大の参加者数となりました。

実習にあたって、館内設置の工作機械ご説明をご担務くださいました、工業技術博物館の館長を始めとした講師陣の皆様、また日本工業大学の実習施設での工作実演をご担務くださいました講師陣の皆様には心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



2023 基礎講座 受講者構成 (割合)



(単位:人)

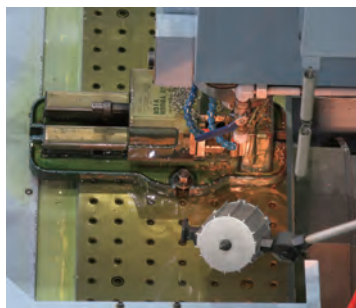
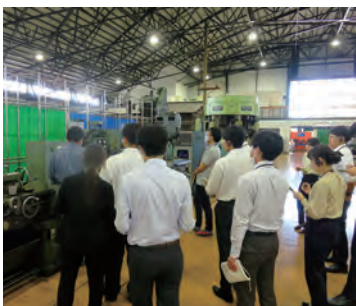
	実習希望	座学のみ	計
東部地区	29	26	55
中部地区	12	15	27
西部地区	12	20	32
メーカー	13	6	19
リース	5	0	5
非会員	6	5	11
合計	77	72	149



受講の様子



日工大 工業技術博物館館長のご挨拶



## 日工販SE合格者 第243回発表

2023年5月・6月・7月の合格者は10名です。

**2023年5月** 合格者数：5名

認定No.	会社名	合格者名
23-32-3900	三栄商事(株)	家田 悠平
23-32-3901	三菱電機メカトロニクステクノロジーズ(株)	川原 慎
23-32-3902	西川産業(株)	西田 拓真
23-32-3903	西川産業(株)	山内 優
23-32-3904	(株)山久	坂田 和哉

**2023年6月** 合格者数：3名

認定No.	会社名	合格者名
23-32-3905	(株)国興	池田 恭輔
23-32-3906	(株)三機	菅原 峻
23-32-3907	(株)東陽	近藤 祐太

**2023年7月** 合格者数：2名

認定No.	会社名	合格者名
23-31-3908	(株)東陽	沢里 和紀
23-32-3909	(株)日研工作所	清水 恒平

## 事務局だより

### 2023年度日工販SE教育「SE資格取得講座」受講者の募集を行います！

日工販認定「セールスエンジニア（SE）資格」を取得する、年度1回限りの講座を10月に開講予定としています。

当講座の受講者を8月25日（金）まで募集します。

募集要項は、7月末～8月第一週までに各社の社内教育責任者宛て送付します。

今年度講座は以下の体系にて開講いたします。奮ってのご応募をお待ちしております。

#### 【第1ステップ】

- (1) 10月の1か月間で、配信されたビデオ講座を受講（定員なし）
  - (2) 10月25日～27日の3日間、受講者が研修場所へ赴き集中講義を受講（定員60名）
- ※上記2つのうち、どちらかを受講お申込み時に選択。

#### 【第2ステップ】

第1ステップを無事修了された受講者に対して、11月に配本される通信教育講座を向こう1年間の期限内（最終は翌年11月10日受付分まで）で受講。

第2ステップまでクリアされた受講者には合格通知書を発行し、申請に基づいて日工販「SE認定証」を交付します。



認定証サンプル



# 海外 だより

## 「ローカルスタッフと共に タイのモノづくりに貢献を」



ACCRETECH THAILAND CO., LTD.  
(株式会社東京精密 タイ現地法人)

武田 陽太郎

*From Thailand*

皆様こんにちは。私 株式会社東京精密の武田と申します。この度は「海外だより」への寄稿の機会を頂きありがとうございます。私は2018年11月よりタイバンコクに赴任し、現地法人 ACCRETECH (THAILAND) にて、東京精密製測定機の販売を行っております。

この機会に私自身の4年半にわたる駐在期間を振り返ってみたいと思いますので、タイに興味がある方、これからタイ及び東南アジアに赴任される方の参考になりましたら幸いです。

まず、赴任当初を振り返ってみると、苦勞を覚悟して赴任したものの、意外にすんなりと業務をこなせる状況になったと記憶しています。これも、タイ王国が親日国であること、日本人街に住んでいる事で生活の不便が少ないこと、

また人懐っこいローカルスタッフに多大なるサポートして頂いたお陰だと思います。因みに、タイ人のコミュニケーション能力は非常に高く、勤勉で能力的にも優秀な人が多いです。加えて、多少の困難があっても初の海外赴任で見るとすべてが新しく、高いテンションで乗り越えられていたのだと思います。むしろタイ文化・各スタッフのキャラクターや背景を知った今の方が個々の事案に考え込んでしまうことも。



某寺院にて



ムエタイジム

次に、私を含めたタイ駐在員の暮らしぶりについて、少しご紹介したいと思います。人それぞれの希望 / 興味 / 趣味によって多様な駐在員生活がおくれることがタイ駐在の魅力の一つです。また、教育・医療も日本人向けに整備されており、ご家族を含め大きな心配をする必要が少ない赴任先といえます。日本と変わらない生活がしたい方は（コストは日本よりかさみますが）トンロー～プロンポン周辺の日本人街で全て事足りますし、慣れた方は少しローカルな街に住むのも雰囲気があっていいでしょう。休日



の過ごし方も、ゴルフ好きの方は毎週行かれていますし、日本人向けの習い事も多数存在しています。また、休日はタイならではの寺院や美しいビーチを巡っている方もおられます。私の休日は家族と寺院巡り・ムエタイジム通い・たまの連休はプーケットでサーフィンといったところでしょうか。

それでもやはりコロナの禍中は困難に見舞われました。業績面は幸い何とかあったものの、特に2021年半ばのデルタ株流行期は「医療崩壊」「ワクチン不足」で駐在員・ローカルスタッフ共々ストレスを抱えながら仕事・生活をしていましたし、私も家族を一時的に日本に帰すなどの対応を取りました。弊社駐在員は会社のサポートで日本の羽田・成田空港で実施された「在外国日本人向けワクチン接種プログラム」を受けたのですが、乗客6人のタイ航空ジャンボ機（人の行き来が無い当時はジャンボに積荷を載せて利益を得ていたようです）に乗り、成田空港に到着した際の「助かった」との思いは一生忘れることはないでしょう。

コロナ禍中のタイ人ですが、日本人以上に感染対策をしている方が多かったです。ある駐在員の方が言っていた「タイ人は幽霊など目に見えないモノを怖がる国民性だから、コロナへの警戒心も強いのでは」という話が印象的でした。

さて、2023年はコロナの影響もほぼ無くなりお客様への訪問、アフターサービスも通常通り行えるようになってきました。精密測定を通じてタイのモノづくりに貢献できるよう、引続き業務に邁進してまいります。皆様、最後までお読み頂きありがとうございました。

社員旅行 ピピ島



アユタヤ遺跡

私の住む  
スクンビットエリアの  
飲食店マップ  
(日本食屋だらけ)

自  
社  
紹  
介

# 我が社の履歴書



フリガナ アルビテクノロジーカブシキガイシャ

社名 **アルビテクノロジー株式会社**

本社所在地

〒373-0813  
群馬県太田市内ヶ島町  
240-1

設立

1997年11月

代表者

市河 忍

資本金

4,000万円

事業内容

工作機械販売 および CAD/CAM 等ソフトウェア販売・サポート

弊社、アルビテクノロジー株式会社は1997年に群馬県太田市で設立され、現在では東京都新宿区と石川県金沢市にもオフィスを構え、日本全国の北海道から鹿児島県のユーザーに工作機械を中心としてCAD/CAMを含む周辺機器まで販売とサポート業務を従業員約10名の少数精鋭にて行わせていただいております。

日々の業務の中で、弊社では営業 / 技術含め元々工場勤務で実際に加工を行っていた人員が多数在籍していることもあって、普段から設備やCAD/CAMのご相談だけでなく段取りや加工方法に関するお問い合わせが多いのですが、ここ最近（コロナ禍が落ち着いた頃から）「今まで加工を外注に出していたが今後社内で加工出来るようにしたい」というご相談が増えてきたように感じます。

当然ターゲットの製品はあるので、それが加工できる工作機械やCAD/CAMを提案するのですが、やはりその先にある段取り方法や加工順序等を理解されていないお客様も多くCAD/CAMでの工程検討、使用工具の選定といった流れをご案内させていただく事があります。

その際のツールとして弊社では、CAD/CAMであるhyperMILLを使用して講習を行う事が多くなっています。少し前までhyperMILLは同時5軸用で値段が高価な



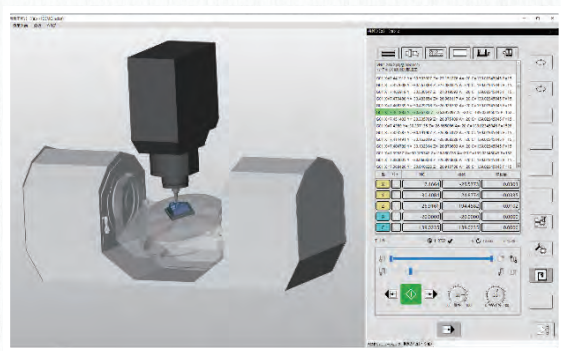
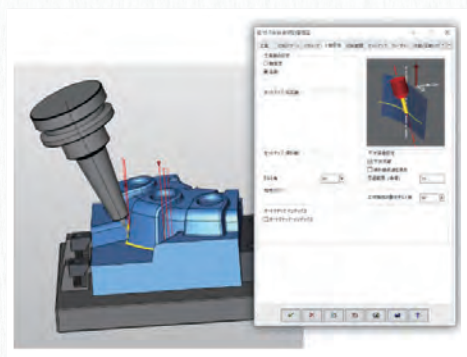
ハイエンド CAM というイメージを持たれている方が多いのですが、ここ数年で2軸/3軸加工の機能も充実してきており2軸を使用した部品加工や3軸を使用した金型(形状)加工でも、それぞれを得意とするCAMに引けを取らないようになってきました。

そのほかにも、穴あけ/2軸から同時5軸加工までUIが統一されていて覚えやすいので初めてCAMを使用する方にも受け入れられやすく、2軸または3軸までで1つの加工手法を覚えると他の加工手法も同じ手順なので、同じ感覚で同時5軸までツールパスの作成が可能で、特に3軸までのCAMを習得した状態ですと、半日程度の講習で簡単な同時5軸の動作は出来るようになります。

それから、CAMの目的は加工するNCデータを作成する所にあります。この点hyperMILLでは各機械用にNCデータを生成するポストプロセッサは基本ユーザー側で作成/修正が出来ずにメーカーにて対応する事になっています。これは、一見するとユーザー側で編集出来ないのが不便に思えるのですが、メーカーで保有する実績のあるポストプロセッサをベースにユーザー側の機械オプションに合わせた作り込みを行えるという事に繋がりますので、安全なツールパスを生成するという事において重大な意味を持ちます。

自分も、修正を依頼した際にメーカーの担当者より「ここを修正すると、ここが危なくなるので修正は出来ない」と言われた事が何度もあります。これもメーカーのポスト担当者が機械の動作を熟知している証ではないでしょうか。

最初のCAD/CAM選びとしては、出来る出来ないの〇×表を基準に選定するよりは、UIが優れている(統一感がある)、出力されるNCデータが安全で品質的に満足出来るものである事が大事ではないでしょうか。



アルビテクノロジー株式会社  
営業部 加工技術課  
マネージャー

刈 込 修 一



# 統計資料

## 工作機械・FA流通動態調査1

### 統計1

単位) 百万円

37社合計		受 注					売 上				
調査月次		2023/05	前月比	前年比	2023/01 ~2023/05	前年度比	2023/05	前月比	前年比	2023/01 ~2023/05	前年度比
広義の 工作機械		21,312	-8.3%	-16.4%	116,444	-18.4%	20,231	18.4%	4.1%	120,363	2.3%
	ロボット・自動化機器	1,831	-19.4%	-52.0%	11,876	-11.2%	2,209	90.5%	72.8%	11,172	37.5%
	CAD/CAP・自動プログラム	195	-28.7%	25.3%	1,412	28.9%	261	6.4%	46.5%	1,484	8.2%
	鍛圧・プレス・溶接	886	-59.6%	-82.4%	9,867	7.1%	1,272	94.8%	43.1%	6,392	45.7%
	ダクト・押出・射出	1,173	88.1%	-32.1%	3,832	-43.9%	1,386	137.9%	62.7%	5,309	3.4%
	小計	25,397	-11.2%	-29.9%	143,451	-17.2%	25,358	28.5%	12.1%	144,721	5.8%
	工作機械以外の扱ひ商品	31,152	31.3%	18.5%	136,106	-12.2%	26,219	3.2%	13.2%	148,322	7.4%
	合計	56,549	8.1%	-9.6%	279,557	-14.8%	51,578	14.3%	12.6%	293,043	6.6%
	従業員数	1,598	0.0%	-0.8%							

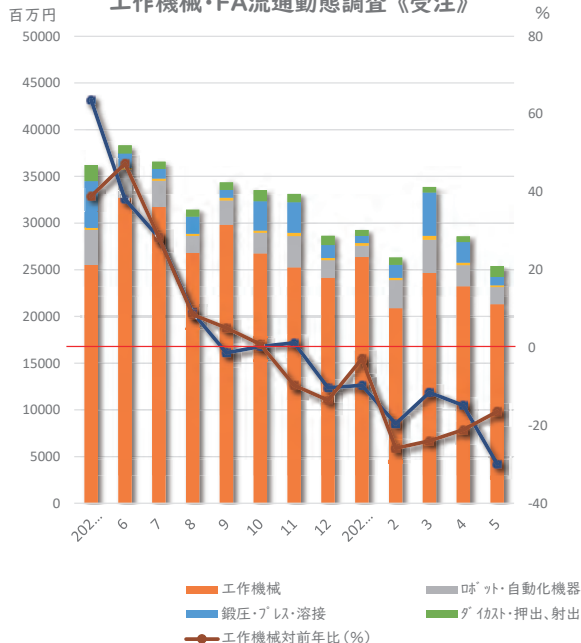
### 統計2

単位) 百万円

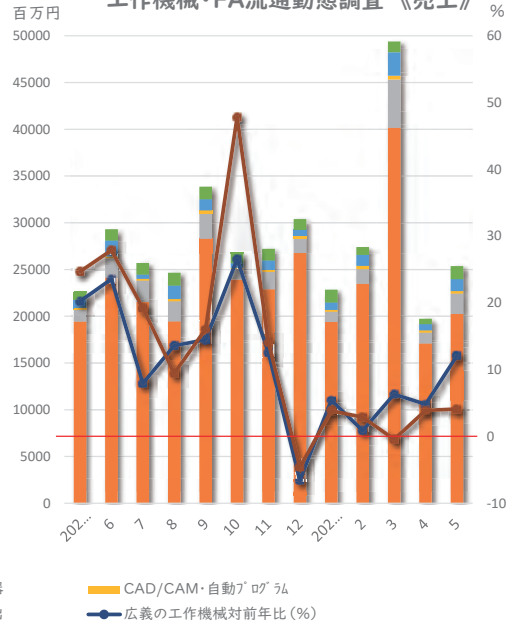
28社合計		受 注					売 上				
調査月次		2023/05	前月比	前年比	2023/01 ~2023/05	前年度比	2023/05	前月比	前年比	2023/01 ~2023/05	前年度比
内訳	直販	19,456	-21.3%	-18.8%	116,985	-8.5%	21,757	24.8%	23.8%	117,829	12.0%
	(内リース)	412	29.6%	116.8%	2,833	-3.9%	817	-31.7%	62.0%	4,549	46.7%
	卸	7,639	8.5%	-23.3%	38,826	-26.3%	6,125	5.2%	-20.7%	39,862	-15.4%
	輸入	3,180	71.5%	48.0%	13,054	9.8%	1,957	-25.1%	-0.1%	13,322	31.5%
	輸出 (内間接輸出)	1,109	-17.5%	-60.8%	5,956	-45.2%	958	3.1%	-31.3%	5,945	-52.9%
	従業員数	1,124	0.1%	-0.1%							

注: 会員80社中、統計1に関しては37社、統計2に関しては28社の回答を得て集計したものである。  
折れ線グラフは工作機械及び広義の工作機械の前年比であり、データ提供会社総数は40社である。

工作機械・FA流通動態調査《受注》

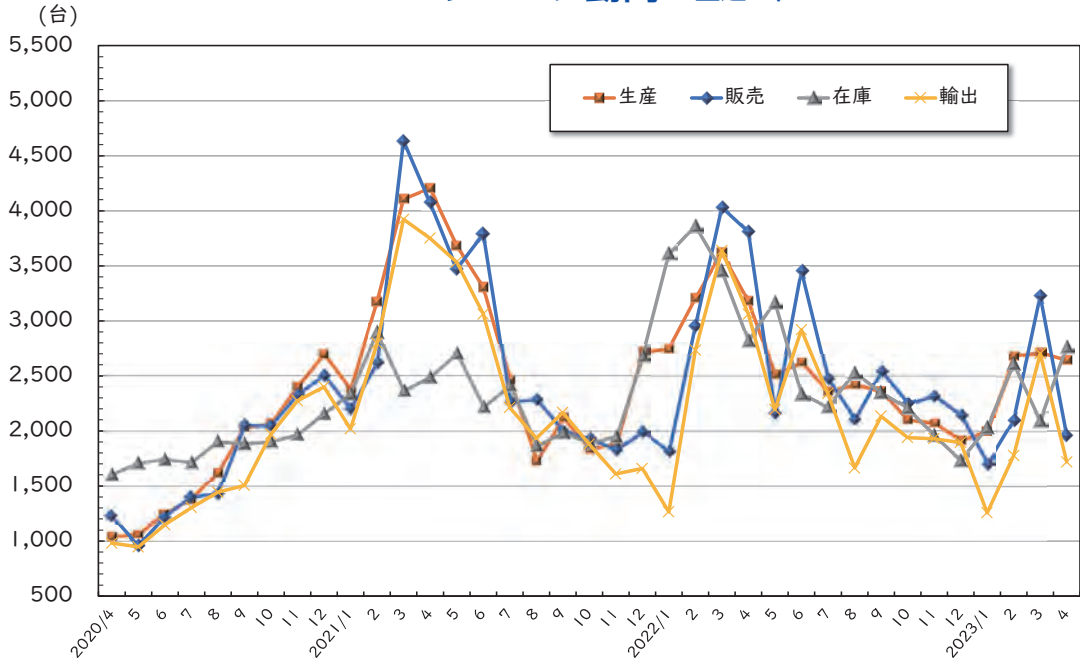


工作機械・FA流通動態調査《売上》

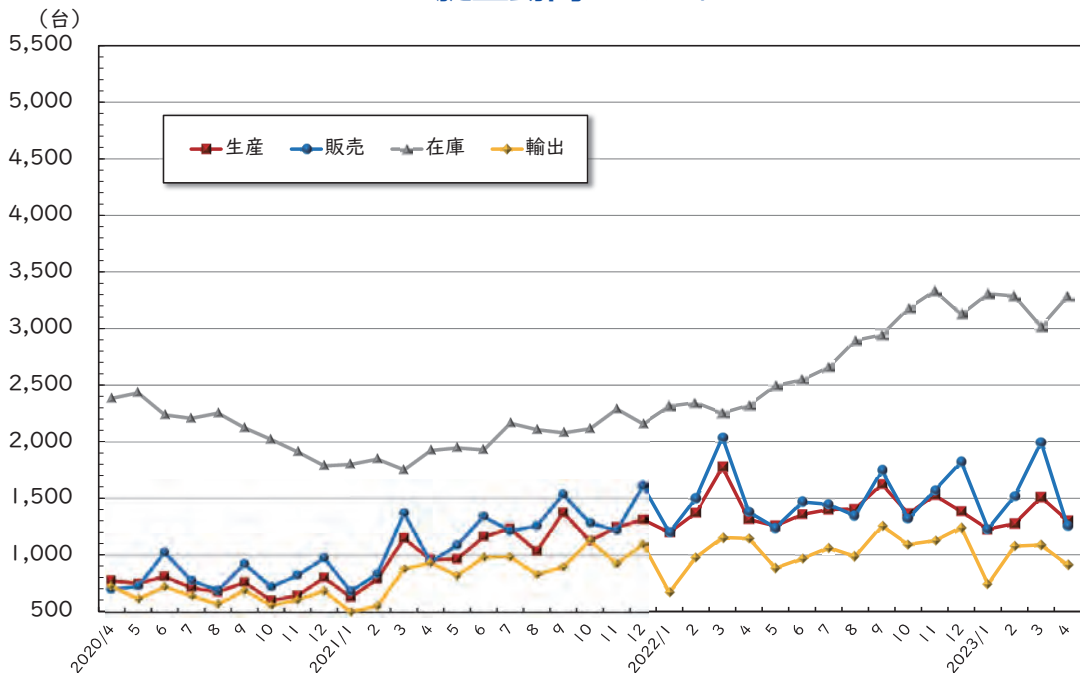


見てわかる 3年間の代表2機種トレンド

マシニングセンタ動向 ~直近3年~



NC旋盤動向 ~直近3年~



出所：経済産業省「生産動態集計」、財務省「貿易統計」

工作機械業種別受注額(2023年5月)

2023年6月20日発表

(単位：百万円)

需要業種	期間	2022年 累計	前年 同期比	2022年 10月~12月 累計	前年 同期比	2023年 1月~3月 累計	前期比	前年 同期比	2023年 1月~5月 累計	前年 同期比	2023年 5月分	前月比	前年同月比
機械製造業	1. 鉄鋼・非鉄金属	19,675	109.4%	5,172	4,917	95.1%	97.5%	7,646	93.3%	1,458	114.7%	91.1%	
	2. 金属製品	50,565	125.6%	11,474	11,366	99.1%	93.5%	16,574	79.3%	2,557	96.5%	72.9%	
	3. 一般機械	243,465	121.4%	52,327	56,612	108.2%	90.7%	93,746	89.4%	17,625	90.3%	88.4%	
	(うち金型)	34,462	128.7%	6,309	8,454	134.0%	91.2%	13,911	91.1%	1,670	44.1%	71.8%	
	4. 自動車	134,719	117.0%	28,683	24,610	85.8%	80.9%	40,519	73.8%	7,828	96.9%	68.7%	
	(うち自動車部品)	92,957	110.6%	20,616	17,923	86.9%	86.8%	29,405	78.0%	5,534	93.0%	66.2%	
	5. 電気機械	56,982	126.6%	11,532	12,552	108.8%	68.4%	17,863	66.6%	2,546	92.1%	56.0%	
	6. 精密機械	29,525	120.9%	6,241	6,507	104.3%	72.0%	9,192	68.9%	1,109	70.4%	45.5%	
	5~6. 電気・精密計	86,507	124.6%	17,773	19,059	107.2%	69.6%	27,055	67.4%	3,655	84.2%	52.4%	
	7. 航空機・造船・運送用機械	18,856	117.7%	5,672	5,035	88.8%	101.9%	8,812	115.4%	1,804	91.4%	112.5%	
	(うち航空機)	5,792	120.9%	1,962	2,218	113.0%	182.4%	3,758	180.6%	1,216	375.3%	180.4%	
	3~7. 小計	483,547	120.6%	104,455	105,316	100.8%	84.1%	170,132	82.0%	30,912	91.2%	77.4%	
8. その他製造業	26,245	98.0%	5,558	4,940	88.9%	86.0%	9,248	85.3%	1,709	65.8%	56.1%		
9. 官公需・学校	2,205	30.0%	573	225	39.3%	46.5%	461	75.3%	147	165.2%	198.6%		
10. その他需要部門	14,094	133.2%	3,603	4,141	114.9%	127.1%	5,780	111.6%	729	80.1%	81.3%		
11. 商社・代理店	6,900	109.8%	1,652	798	48.3%	56.0%	1,392	52.7%	295	98.7%	68.6%		
1~11. 内需合計	603,231	118.2%	132,487	131,703	99.4%	85.9%	211,233	82.5%	37,807	90.6%	76.4%		
12. 外需	1,156,370	112.1%	283,305	262,498	92.7%	89.0%	435,179	86.9%	81,716	89.8%	78.7%		
1~12. 受注累計	1,759,601	114.2%	415,792	394,201	94.8%	88.0%	646,412	85.4%	119,523	90.1%	77.9%		
(内NC機)	1,727,473	114.0%	408,638	388,378	95.0%	88.3%	637,482	85.8%	118,068	90.1%	78.1%		
販売額	1,568,350	122.2%	411,901	441,970	107.3%	112.9%	679,808	110.7%	124,804	110.4%	107.9%		
(内NC機)	1,544,745	122.4%	406,116	435,621	107.3%	113.0%	670,058	110.7%	122,840	110.1%	107.6%		
受注残高	896,813	127.9%	896,813	849,094	94.7%	112.1%	863,228	102.3%	863,228	99.4%	102.3%		
(内NC機)	869,611	127.6%	869,611	822,368	94.6%	111.7%	836,846	102.1%	836,846	99.4%	102.1%		

出所 (一社) 日本工作機械工業会



# 議事録

## 第304回定例理事会議事録

日 時：2023年5月10日（水）14:00～16:30  
場 所：マザックアートプラザ 4階中会議室（Web併用）  
出席者：会長、副会長2名、専務理事、理事23名（内代理出席5名）  
監事3名（内代理出席3名）

会長挨拶の後審議に入った。

### [付議事項]

#### (1) 総会議案の件：

専務理事より説明：

- 1.1 事業報告案・決算案については特に異議・質問なし。
- 1.2 2023年予算案・活動方針案

22年度比大きく変更となるのは、職員1名の定年退職に伴う引継費用が加算されていること、また各地区委員会の予算については、活動の強化及び諸物価高騰も考慮し、22年度実績の2割増程度を見込んでいる。教育予算については、償却費が新規プリンター導入（旧プリンタのリプレース）により大幅増。

教育事業の実施方法は昨年と同じで、基礎講座での実習およびSE講座での名古屋集合教育（ビデオとの選択制）も継続。会長からはビデオでの講習については上司からきちんと監督すべきこと、また一般会計の地区予算2割増について、地区活動を例年に増してやって頂きたいとの要請あり。また会費についても24年度からは暫定会費を止め、元に戻すことを検討すべしとの指摘あり。

- 1.3 会長・副会長候補、1.4 暫定会費継続 1.5 会長表彰 の各項目については意義・質問無し。

よって、決議事項①総会議案の件は、全理事異議なく承認された。

#### (2) 総会の開催方法：

専務理事より説明。

特に異議・質問なく 全理事により承認された。

#### (3) メカトロテック2023協賛：

全理事より異議なく承認された。

### [報告事項]

#### (1) 基礎講座申込状況：

添付資料に「予算120名」の記載があるが、23年度予算では140名で作成済み。

#### (2) 流通動態調査（3月）：

専務理事より説明：

景況感は総じて悪化。海外でも中国・インドを除き悪化しているとの結果になっている。

#### 会長より：

動態調査の結果は1・2月の厳しさを表していると思うが、4・5月になれば強気も増えてくると期待している。

メカトロテックは第一展示館が新設され見やすくなったこと、また、過去最大のコマ数の展示だが、コマはほぼ即完売している。是非見学してほしい。

## 第305回定例理事会議事録

日 時：2023年7月6日（木）14:00～16:40  
場 所：専売会館 8階ホール（Web 併用）  
出席者：会長、副会長 2名、副会長代行、専務理事、理事 21名（内代理出席 4名）  
監事 3名（内代理出席 1名）

会長挨拶の後審議に入った。

### 【付議事項】

なし。

### 【報告事項】

#### (1) 第54回総会報告：

専務理事より資料に基づき説明。会長より多数のご出席を頂いたことまた講演も興味深いものだったとのコメントあり。

#### (2) 2023年度新体制：

専務理事より説明。新任の岡本副会長代行、坪内国際委員長、後藤中部地区委員長からご挨拶あり。

#### (3) 中部地区正副懇談会（6/20）：

後藤委員長から報告。行事として、若手研修会（1回）、工場見学会（2回）懇親ゴルフ会（1回）、忘年懇親会、情報交換会の開催。イベントごとにそれぞれ担当者を決めて実施。情報交換では若手向けの企画を考えたらどうかとの提案あり。

会長より 8/3 の技術セミナーはTJ-社の方から 3D を上手く使った金型の作り方を皆さんに理解して頂きたいので講演をしたいとの要請に基づくもの。興味深い内容であれば他地区にも展開したい。

#### (4) 東部地区委員会（6/26）：

豊田東部地区委員長から報告。

東部地区委員と事務局で開催。活動内容の協議。情報交換会（9/1）、懇親ゴルフ会（11/18）、忘年懇親会（12/5）、工場見学会（2月）。地区副委員長として、三菱商事テクノス株の林委員が就任。

#### (5) 西部地区正副懇談会（7/4）：

植田西部地区委員長から報告。15社15名で開催。第54回総会の報告。新体制、特に副会長代りを置くことの説明。行事としては懇親ゴルフ会、今までやっていない工場見学会、忘年懇親会、新年の時局講演会及び情報交換会を行う予定。懇談会後の懇親会も行い、日工販活動の価値観を提示し会員増にもつなげたいとの意思を共有することができた。



(6) 基礎講座報告：

事務局より報告。本年度は参加人数 149 名と過去最大。日工大の実習には 77 名参加。6 月 1 日～30 日開講の基礎講座のビデオ配信による履修状況を資料に基づき説明。残り 1 週間の時点でも全体の 44%は履修が非常におくれており、着手すらしていない者も 10 名。最終的には特殊事情がある会社の 5 名を除きほぼ履修は完了しているが、最後の数日での駆け込み受講がまだまだ多い状況。

基礎講座の科目に「仕事の取り組み姿勢」という講義があり、受講生の皆さんにレポートを出してもらおうようになっている。資料として抜粋したものを添付しているので、若い人がどう感じているかの参考になると思うので是非お読みいただきたい。

池浦教育委員長より、基礎講座に本年度多数の受講生を出していただき敬意を表すること、仕事の取り組み姿勢のレポートは非常に参考になる。

各社の教育責任者には各社分のレポートをフィードバックしているので、今後は是非活用願いたい。

(7) 流通動態調査 (3月)：

専務理事より説明。受注高は日工会内需ときれいに相関関係し 3・4・5 月と段々落ちてきている。

**専務理事より職員の病気による長期休暇の影響の説明。**

物流の 2024 年問題の説明（物流問題については、商社は荷主となるケースが少なく日工販としての行動計画作成はなじまないばかりか、むしろユーザー側の理不尽な配送要請への啓発も必要ではないかとの議論があった）。

## 中部地区正副会員懇談会

日 時：2023年6月20日（火）14:00～16:00  
場 所：(株)井高 本社 5階会議室  
出 席 者：26社 26名

### [議 題]

#### ① 日工販定例理事会、通常総会報告：高田会長

日工販役員改選、会費について報告

記念講演（講師 軍事アナリスト 小川和久氏）について、面白い内容で聴講者の皆さんが興味深く聞き入っていたとの紹介

#### ② 中部地区委員長交代の件：高田会長

今後は三栄商事(株) 代表取締役社長 後藤正幸様を中部地区委員長とし、過去にとらわれず、拘らず、変えて行きつつ有意義な時間を過ごせたら良いのではと考える。

#### ③ 中部地区の今後：後藤中部地区委員長

日工会をはじめとした工作機械業界に日工販が影響を与えていけるように、催しなどを通じて会員数を増やしていければと考える。

との所信表明があった。地区委員長は2年毎に交代としたい。

#### ④ 2023年度行事について：後藤中部地区委員長

若手勉強会（1回）、工場見学会（1、2回）、懇親ゴルフ会（1回）、忘年懇親会、情報交換会を行う。

イベントは担当を決めて実施したいとの提案があり、次のように決定。

工場見学会：11月（株)山善、石原商事(株)、2月（株)東陽、(株)井高

若手勉強会：10月第1、2週（MECT 出展社5～6社での出展機説明）

懇親ゴルフ会：10～11月（釜屋(株)）

技術セミナー：8月3日 ウィンクあいち、内容説明

忘年懇親会：12月11日 メルパルク

#### ⑤ 情報交換

中部地区の業況は各社ほぼ一緒であり、明るい内容での情報交換をと委員長。

勉強会について若手社員を中心としたモチベーションが上がる企画が良いのではとの意見があり、イベント内容や目的について各社より提案があった。

若手にはコミュニケーションを通じてやる気をもたせ横とのつながりを、管理職は意識改革、全員参加で盛り上げることが日工販全体の発展につながる。

最後に、委員長より「皆さんの協力で盛り上げて自由に变化できる会にしていきたい」と結びの言葉で散会。

## 西部地区正副会員懇親懇談会

日 時：2023年7月4日（火）17:00～20:30  
 場 所：りき六  
 出 席 者：15社／15名

### 【議 題】

- ① 6月7日開催 日工販「通常総会」の報告
- ② 収支報告及び新体制について。2024年以降の会費について
- ③ 赤澤副会長、岡本副会長代行の件
- ④ 2023年度西部地区の行事予算及び行事内容について

日工販の位置づけをさらに上げ、JIMTOF や IPF・MF-TOKYO など大きな展示会に「日工販」という組織の位置づけをしっかりと表明し、展示会においても権限を持てるように、目に見えるメリットをもっと出し会員を増やしていこうと決意を新たにし、盛会の中閉会いたしました。



## 2023年度東部地区委員会

日 時：2023年6月26日（月）16:00～17:00  
場 所：日工販事務局会議室  
出 席 者：委員長、委員4名（オブザーバー1名）、事務局 以上7名

委員長挨拶の後、社内人事異動に伴い交代する小田島現委員、五十嵐次期委員それぞれから挨拶があった。

### 1) 2022年度活動実績について

昨年度予算に対する活動実績の報告（ほぼ予算通り）。

### 2) 2023年度行事について

今年度の予算を申請し、過日開催の総会において決議された。

なお、今回地区委員会の開催場所を日工大博物館に借りて実施することも検討したが、遠方のため今回は日工販会議室にて開催することとした。

各行事の具体的内容・開催時期について検討し下記の通り決定した。

#### ① 情報交換会

8月28日（月）

※なお、事後調整の結果、9月1日（金）にて開催するものとした。

終了後は、懇親会を予定。

#### ② 懇親ゴルフ会：

11月18日（土）

※川越カントリークラブ 4組予定

#### ③ 忘年懇親会：

12月5日（火）

※KKRホテルにて開催

#### ④ 工場見学会

2024年2月中旬～下旬で調整

### 3) 副委員長の選任について

林委員が推挙され林委員がこれに応諾したため、豊田委員長が林委員を副委員長に任命した。

## 日工販ニュース表紙写真の公募について

日工販事務局からのお知らせです。

日工販ニュースを楽しく、また手に取っていただきやすい機関誌にしたいという思いから、表紙にその季節折々の写真を掲載することとしています。

そこで、以下要領により読者の皆様から表紙写真を公募しますので奮ってご応募ください。

### 募集要領

#### 1. 対象写真

年5回の発刊月（5月、7月、11月、1月、2月）に合わせた写真（1枚以上）

※複数枚ご送付いただいた場合は、選定は事務局にて実施します。

※被写体は「風景」にこだわられません。季節を感じさせるものであれば何でも可。

#### 2. 送付手段

以下要領により、電子データにてご送付をお願いします。

①日工販事務局宛てメールに添付： [jmta@nikkohan.or.jp](mailto:jmta@nikkohan.or.jp)

メール件名： 「《日工販ニュース》表紙写真（応募）」

②大容量ファイル配信ツール（「FireStorage」など）等の利用で送付

③USB や CD 等による送付（媒体返却を希望する場合は「返却要」のメモを同封してください）

※上記いずれの場合も、以下事項を必ず添えてください。

- ・「撮影された方の会社名・所属部署・役職・氏名」
- ・「掲載希望発刊月」
- ・「撮影した場所や対象（風景の場合）、あるいは写真のタイトル」



#### 3. 採否の連絡

採用された写真をご送付いただいた方には、当該写真が掲載された「日工販ニュース」および御礼としてQUOカードを送付させていただきます。

採用の連絡は発送を以て代えさせていただきますが、後々の掲載に備えてご送付いただいた写真は事務局でストックしていくため、適用月に掲載されない場合でも不採用の連絡はいたしませんので予めご了承ください。

## ■ 編集後記

本格的な暑さを迎えますますますご壮健でご活躍のこととお喜び申し上げます

我が家では犬（パピヨン）を飼っております。過去に数回、手術をしましたが、まだまだ元気な13歳です。特に体調的に問題があるわけではないのですが、最近バギーを購入致しました。購入前までは、わざわざ購入すべき物ではないと思っていたのですが、小さいとはいえ、約5kgを抱えての買い物（ペット同伴可能なショッピングモール）は正直大変な思いをしておりなかなか一緒に出掛けることをしていなかったのですが、バギーを利用するとこんなに楽ならもっと早く購入しておけばよかったと後悔。

今までバギーを利用されている方々をよく見ておりましたが、納得です。今は単身赴任中の為、なかなか一緒に出かけることは出来ませんが、これからも一緒に出掛け、バギーを活用したいと思っております。

だんだんと暑さが厳しくなりますが、夏バテなどになりませんようお身体ご自愛くださいませ。 (君村)

夏の匂いをいやがおうにも感じるようになってきたこの頃、皆様毎日をどのように過ごされているでしょうか。電気料金の値上げもどこ吹く風、この暑さに耐えられず、毎日エアコンと扇風機をフル活用しています。

先日、久しぶりに馬鹿なケガをしてしまいました。45年ほど前、高校時代に大腿骨を骨折する大怪我を負ったので、以来ケガには十分に気を付けていたのですが、この歳になってやっではいけない足のケガです。「ひどい捻挫をしたなあ」と思っていました、足首が痛すぎて医者でレントゲン撮ってもらうと、腓骨と呼ばれる細い骨の足首に近いところがネジ切れていたようです。この暑い時期に、今ギブスに巻かれて足首だけは熱帯の日々……。案の定、歩行は松葉杖です。家の階段は座って上り下り……。不自由この上ない生活を送っていますが、「後10年遅くこんな怪我をしていたら寝たきりになっていたかも？今で良かった……」と思ひ直し、しっかりと治して再起しようと気合を入れています。 (池邊)



お問い合わせ・ご意見をお寄せください。 ■ E-mail : [jmta@nikkohan.or.jp](mailto:jmta@nikkohan.or.jp)

## 日工販NEWS July 2023

2023年7月発行

発行 日本工作機械販売協会  
〒108-0014 東京都港区芝5-26-30 専売ビル3階  
電話 03-3454-7951 FAX 03-3452-7879

発行責任者 専務理事 中島 和彦

編集 日工販調査広報委員会  
委員長 金子 隆視 (丸紅テクノシステム株式会社)  
委員 君村 義人 (伊藤忠マシンテクノス株式会社)  
中村 龍二 (株式会社トミタ)  
金子 智彦 (三菱商事テクノス株式会社)  
長友林太郎 (株式会社牧野フライス製作所)  
吉田 夢輝 (三井住友ファイナンス&リース株式会社)

制作・印刷 株式会社昌文社  
〒108-0014 東京都港区芝5-26-30  
電話 03-3452-4931 <http://www.sho-shiba.com>

正会員 (全80社)

東部地区 (35社)

(株) 旭 商 工 社  
 アルビテクノロジー(株)  
 伊藤忠マシテクノス(株)  
 イワイ機械(株)  
 (株) ウインテック  
 大石機械(株)  
 (株) カナデン  
 (株) カネコ・コーポレーション  
 (株) 兼松 K G K  
 (株) 京二機  
 (株) 共和工機  
 (株) 群馬工機興  
 (株) 小林機械  
 (株) 佐藤商事  
 (株) 三機商會  
 三洋マシン(株)  
 サンワ産業(株)  
 シマモト技研(株)  
 住友商事マシネックス(株)  
 (株) セイロジヤパン  
 誠和エンジニアリング(株)  
 双日マシナリー(株)  
 帝通エンジニアリング(株)  
 (株) テヅカ  
 (株) トミタ  
 (株) 豊通マシナリー  
 (株) N a I T O  
 日鋼 Y P K 商事(株)  
 丸紅テクノシステム(株)  
 三井物産マシテック(株)  
 三菱商事テクノス(株)  
 (株) ヤマモリ  
 ユアサ商事(株)  
 米沢工機(株)

中部地区 (23社)

石原商事(株)  
 (株) 高井機販  
 岡谷機械(株)  
 力ト一機(株)  
 釜屋機械商事(株)  
 岐阜機商事(株)  
 甲信商事(株)  
 三栄商事(株)  
 (株) サンコ一商事  
 三立興産(株)  
 下野機械(株)  
 (株) 大成誠  
 (株) 大和商會  
 (株) 大東商會  
 (株) 日本精機商會

浜松貿易(株)  
 (株) 不二  
 三菱電機メカトロニクステクノロジーズ(株)  
 山下機械(株)  
 (株) U - M A C H I N E  
 ワシノ商事(株)

西部地区 (22社)

赤澤機械(株)  
 伊吹産業(株)  
 植田機械(株)  
 O T フ ァ テ ッ ク (株)  
 関西西機械(株)  
 京華産業(株)  
 合田商事(株)  
 五誠機械産業(株)  
 桜井機械(株)  
 (株) ジーネット  
 (株) ダイイチテクノス  
 大幸産業(株)  
 (株) 立花エレテック  
 (株) タナカ善  
 西川産業(株)  
 日工機械材(株)  
 (株) ニツマシナリー  
 日本産商(株)  
 (株) マックマシンツール  
 (株) マルカ  
 宮脇機械プラント(株)  
 (株) 山善

賛助会員 (全76社)

製造業 (67社)

アイダエンジニアリング(株)  
 (株) アマダマシナリー  
 育良精機(株)  
 エヌティーツール(株)  
 (株) MSTコーポレーション  
 (同) L N S ジ ャ パ ン  
 エンシュウ(株)  
 オートエスジュー(株)  
 (株) オートム製作所  
 オークマ(株)  
 (株) 岡本工作機械製作所  
 (株) 神崎高級工機製作所  
 (株) 北川鉄工所  
 キタムラ機械(株)  
 (株) 北村製作所  
 (株) キヤドマック  
 キヤムタス(株)  
 黒田精工(株)  
 三愛エコシステム(株)  
 サンドビック(株)  
 三宝精機工業株式会社  
 (株) C & G システムズ  
 (株) ジェイテクト

(株) シギヤ精機製作所  
 シチズンマシナリー(株)  
 芝浦機械(株)  
 シーメンズ(株)  
 新日本工機(株)  
 住友電気工業(株)  
 (株) ソンデイツク  
 大日金属工業(株)  
 (株) 太陽工業  
 高松機械工業(株)  
 (株) T A K I S A W A  
 (株) ツガミ  
 津田駒工業(株)  
 D M G 森精機(株)  
 (株) 東京精機工作所  
 (株) 東京精密  
 東洋精機工業(株)  
 (株) ナガセインテグレーション  
 中村留精密工業(株)  
 (株) 西田機械工作所  
 (株) 日研製作所  
 (株) 日進製作所  
 ニデックオーケーケー(株)  
 ニデックマシンツール(株)  
 ハイデンハイン(株)  
 (株) 初田製作所  
 浜井産業(株)  
 浜名エンジニアリング(株)  
 B I G D A I S H O W A (株)  
 ファナック(株)  
 (株) F U J I  
 ブラザー工業(株)  
 豊和工業(株)  
 牧野フライス精機(株)  
 (株) 牧野フライス製作所  
 (株) 松浦機械製作所  
 三井精機工業(株)  
 (株) ミットヨ  
 三菱電機(株)  
 三菱マテリアル(株)  
 (株) M O L D I N O  
 安田工業(株)  
 ヤマザキマザック(株)  
 吉川鐵工(株)

リース業 (9社)

共友リース(株)  
 J A 三井リース(株)  
 十六リース(株)  
 首都圏リース(株)  
 昭和リース(株)  
 三井住友トラスト・パナソニックファイナンス(株)  
 三井住友ファイナンス&リース(株)  
 三菱 H C キャピタル(株)  
 三菱電機フィナンシャルソリューションズ(株)



## 日本工作機械販売協会

JAPAN MACHINE TOOL DISTRIBUTORS ASSOCIATION

〒108-0014 東京都港区芝 5-26-30 専売ビル

TEL.03-3454-7951 FAX.03-3452-7879

<http://www.nikkohan.or.jp>